

指導資料

副読本の効果的な 実践のために

～平成23年度道德教育推進拠点校事業、平成24年度道德教育推進地域・推進校事業～



兵庫県道德教育推進連絡協議会
兵庫県教育委員会



は じ め に

社会のモラルの低下や都市化の進展に伴う地域の教育力の低下などが、子どもたちの豊かな心の育成に影響を与えている今日、学校・家庭・地域が連携して、人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念、公共の精神、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度など、人生や新しい社会を切り拓く主体性のある人間を育成するため、その基盤となる道徳性を育成することが求められています。

こうした中、児童生徒の発達段階に応じた「兵庫版道徳教育副読本」を毎年県内の小・中学生に個人配付し、道徳の時間等、道徳教育の充実に取り組んでいます。この副読本は学校での活用はもちろん、家庭での活用も意図した内容となっています。

平成 23 年度から各学校でこの副読本を活用した創意工夫ある取組が展開されていますが、県教育委員会では、副読本の効果的な活用及び学校・家庭・地域と連携した道徳教育の充実を図るため、推進校や推進地域を指定して実践研究を行ってきました。

推進校においては、副読本を活用した道徳の授業研究を通して授業実践の深化を図るとともに、その成果等を公開授業やフォーラム等で地域へ情報発信し、普及・啓発を行っています。また、推進地域では、小中連携や学校・家庭・地域が連携した取組を全市的に展開しています。

この度、これらの取組を「道徳教育推進連絡協議会」の協力のもと、本冊子にまとめました。この冊子には、実践例をもとに、授業における留意事項やヒント等を記載しています。各学校において、この冊子の活用が、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実につながり、子どもたちの豊かな心の育成に資することを期待します。

最後になりましたが、本冊子を発行するにあたり、ご尽力いただきました「道徳教育推進連絡協議会」の横山利弘委員長をはじめ委員の皆様、各推進校・推進地域の皆様に心から感謝を申し上げます。

平成 25 年 3 月

兵庫県教育委員会

目 次

I 章 道徳の時間について

1

II 章 副読本を活用した「道徳の時間」の実践

1 【小学校1・2年】 ころ はばたく

- ◆「しゅく川公園」 3
- ◆「からすのえんどう - 森 はな -」 5
- ◆「おじいちゃんのふえ - 三木市 小林のししまい -」 7

2 【小学校3・4年】 心 きらめく

- ◆「オオムラサキのたん生」 9
- ◆「そろばんづくり - 小野のそろばん -」 11
- ◆「ぼくの町のたからもの - 平之荘能舞台 -」 13

3 【小学校5・6年】 心 ときめく

- ◆「私、お医者さんになる - 横山 醇 -」 15
- ◆「未来にのこそう 私たちの浄土寺」 17
- ◆「忘れない夏 - 嘉藤栄吉 -」 19

4 【中学校】 心 かがやく

- ◆「留さんのボギー - 宮本留吉 -」 21
- ◆「洋子の播州歌舞伎 - 伝統の若き継承者 -」 23
- ◆「運命の木 - 姫路城の大柱 -」 25

III 章 副読本の活用による連携を核とした道徳教育の実践

- ◆高砂市 27
- ◆朝来市 31

IV 章 資料

- ◆道徳教育推進フォーラム パネルディスカッション記録
「兵庫の道徳教育のさらなる充実をめざして」 35
- ◆道徳の内容項目一覧 41
- ◆道徳教育推進事業 43
- ◆道徳教育推進連絡協議会委員一覧 45

I 章 道徳の時間について

1 道徳教育の「要」は道徳の時間

「道徳の時間」は、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の「要」の時間としての役割を担っており、児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己の生き方を見つめる指導により「道徳的実践」（言葉・行動）の基盤となる「道徳的実践力」（心）を育成する時間です。

2 兵庫版道徳教育副読本の特徴

兵庫版道徳教育副読本（以下、「副読本」という。）の読み物資料は、兵庫にまつわる題材（先人、自然、伝統文化）をもとに書き下ろし、道徳の時間の主要な教材として使われることを想定して、主人公が道徳的価値を自覚するプロセスを考えさせる「しかけ」など、構成上の工夫を施しています。

①主人公が道徳上の問題で変化する資料

主人公が道徳的価値を自覚する姿を描き、児童生徒がその姿から道徳的価値の自覚を追体験する

②主人公の生き方を貫く信念を描いた資料

各場面に描かれた主人公の生き方を貫いた「信念」を手がかりとして、それを支えた道徳的価値を考える

これらを活用する授業では、主人公の心の揺れ・変化・高まりを考えさせる発問構成の工夫が求められます。つまり、児童生徒が第三者的な視点から主人公の行為を分析するのではなく、主人公に自己を投影させて道徳上の問題等について考えさせる授業展開が道徳の時間では重視されます。

また、家に持ち帰って家族と一緒に読めることも副読本作成の1つの方針としていることから、中には児童生徒にとって読みごたえのある内容になっている資料もあります。資料が長い場合は、前もって読ませる、資料の一部を教師が簡潔に説明する等の工夫をします。発達段階によっては、挿絵を用いて、紙芝居風に資料提示することが理解の手助けに有効です。

3 道徳の授業展開のポイント

兵庫県教育委員会では、平成21年度に『指導の手引き「生命を尊重する心」と「規範意識」の育成』を配付しました。読み物資料の分析、授業の構想の在り方等については、これを参照してください。ここでは、授業展開のポイントについて、紹介します。

◇ 導入段階

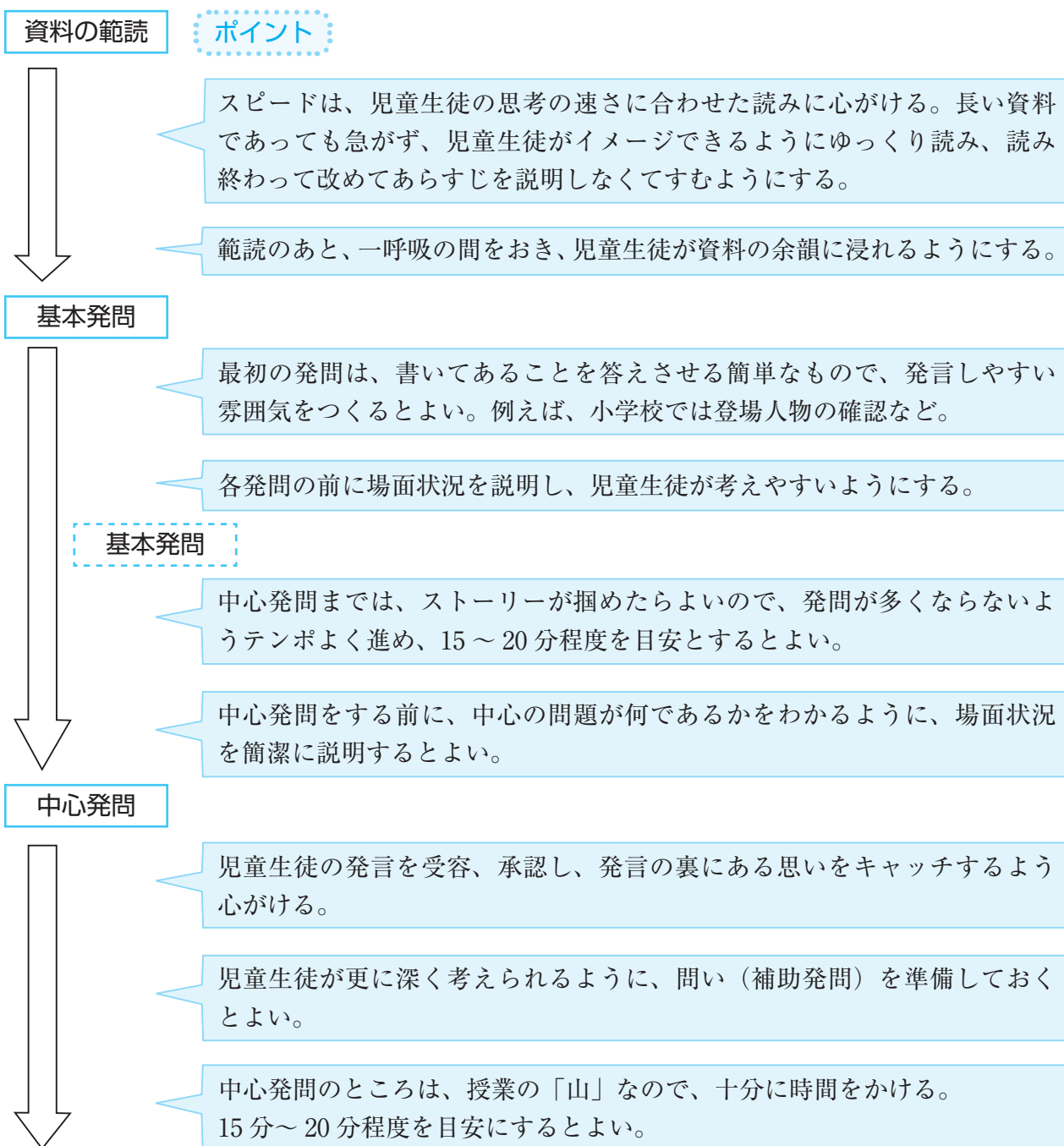
主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る段階です。

ポイント 導入は簡潔に

副読本では多くの兵庫ゆかりの先人を取り上げていますが、その人物の生き方が出ている「事実」（人生の一部）を切り取って、資料化しています。その先人の業績については必要があれば読み物資料のプロローグやエピローグに掲載しています。「自然」や「伝統文化」についても、人物の心の動きを抽出できるような資料となっています。このため、児童生徒にとって詳細な時代背景の理解や専門的な知識は必要ありません。中心発問でしっかり考える時間を確保するため、導入段階に多くの時間をかけないことが大切です。

◇ 展開段階

ねらいの根底にある道徳的価値を理解し、それを児童生徒自らが自分のこととしてとらえ、道徳的価値を自覚する授業における最も大切な段階です。



◇ 終末段階

ねらいとする道徳的価値をまとめたり、温めたりして今後につなげる段階です。

ポイント 終末は余韻を残す

終末は余韻を残して終わりたい。教師の説話、感想を書く、感想を発表する等の活動が考えられますが、教師の価値観を押し付けないことが重要です。

Ⅱ章 副読本を活用した「道德の時間」の実践

しゅく川公園

- 1 主 題 名 動植物を大切に
- 2 内容項目 3 - (2)
- 3 ね ら い まなのおじいちゃんの話聞いて道德的に変化するたけしを通して、動植物に優しい心で接しようとする道德的実践意欲を育てる。
- 4 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	・満開の桜に興味をもつ	これは何の写真でしょう ・桜 ・お花見給食	・資料への興味付けをする。
展 開	・資料を黙読する。 ・目をぱちくりさせた主人公の気持ちを考える。 ・「そうやったんや。」と言った時の主人公の気持ちを考える。 ・晴れわたった空を見上げる主人公の心の動きを考える。	目をぱちくりさせたたけしは、どんなことを思っているのでしょうか。 ・おどろいたな。さくらが呼吸をしているなんて。 ・動かないのに、本当だろうか。 「そうやったんや。」と言いながら、たけしは、どんなことを考えているのでしょうか。 ・木も人間と同じように年もとるし、病気にもなるんだ。 ・木を大切に守っている人達がいるんだ。 ・みんなで木を大切に育てているんだ。 晴れわたった空を見上げながら、たけしはどんなことを考えているのでしょうか。 ・この苗木が大きくなるのが楽しみだな。 ・ぼくも見守っているからね。 ・ぼくと一緒に大きくなろうね。 ・ぼくも桜の木にやさしくしたいな。	・資料を範読する。 ・桜も呼吸することを知り、「桜が生きていること」を意識し始めた主人公の心を考えさせる。 ・おじいちゃんの話がきっかけとなり、桜を愛おしむ意識が主人公に起こっていることをおさえる。 ・桜を愛おしむ意識が高まり、「ぼくも木に優しい気持ちで接しよう」という実践意欲を強めていることをおさえる。
終 末	・手紙を書く	お手紙を書きましょう。 ・まなじいへ ・たけしへ ・桜の木へ	

実践紹介 — 発達段階に応じたねらいで —

- ◆ 導入で、校内のお花見給食と町内の桜華園の桜祭りの写真を見せ、満開の桜に興味を持たせるようにした。

展開では資料は範読せず、教師が「まなじい」になり（お面をつける）、主人公の「たけし」のこぼれ話を吹き出しにして、お話形式で児童に伝えるようにした。



- ◆ 下記に示すのは、教師の中心発問と児童の反応である。授業のねらいとしては、たけしが「ぼくといっしょに大きくなろう。」「おじいちゃん達ができなくなったらぼくたちが世話をしとあげるよ。」というところまでもっていきたかったが、児童からはそういう意見は出なかった。

授業研究会では、低学年の3－（2）は「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する」というものなので、自然環境を考えたり自然愛護までも考えなくてもよいと講師から指導助言があり、各学年の内容項目を理解して授業をすることの大切さを実感した。また、中心発問に加えて「世話をする人がいなくなったらどうする？」「ぼくが大人になったらどうするの？」と具体的な行動を問うことにより、道徳的实践意欲を育てるというねらいに迫ろうとしたことについて、行動の決意表明をさせる時間ではなく、主人公になって心の動き（気持ち）を考えることを通して、道徳的实践意欲を育てることが重要であるとの助言があった。

教師の発問・指示	児童の反応
一番さいご、「この木が大きくなっていくのを…見上げました。」たけしは、このときどんなことを思っていたでしょう。 桜が大きくなるまでにいっぱい時間がかかるな、まなじいもいなくなって世話する人がいなくなったらどうする？ぼくが大人になったらどうするの？	・桜咲いたら元気になるかなあ。大きくなってぐんぐん大きくなったら元気になるかなあと思って。 ・水をやるやろ、大きくなるやろ、立ってる木も…まわりの支えもいらなくなる。桜が大きくなるまで、何日たつんだらうって。 ・水いっぱいもらって大きくなっていったら、桜が咲いて、散るんかなと思って見上げた。 ・桜が大きくなるかなあって。 ・ぼくが世話する。 ・死んで枯れたら、桜が枯れているよってって、水をやったらまた大きくなって…また元気になってくる。

内容項目の発展性をふまえる

内容項目3－（2）は、中学校の「自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める」まで発展的につながっていく。内容項目を小学校低学年から中学校まで通して見て、どの段階のどの部分をやるのかを明確にする必要がある。本事例では自然愛護まで考えさせようとしているが、自然環境を考えるのが小学校高学年、自然愛護や環境保全を考えるのは中学校の段階である。

それぞれの発達段階において、児童生徒の実態を基に、児童生徒自身が道徳的価値の自覚を深め発展させていくことができるように、適切なねらいを設定することが大切である。

からすのえんどう ―森はな―

- 1 主 題 名 友達と仲よく
- 2 内容項目 2 - (3)
- 3 ね ら い 手のひらにはなの笛とまさとが作った笛が仲良く並んでいるのを見て道徳的に変化するはなを通して、友達と仲良くしようとする道徳的心情を育てる。
- 4 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	からすのえんどうを知っていますか。 ・知ってる。 ・畑にさいていたよ。	・からすのえんどうが草笛になることをおさえる。
展 開	・資料を黙読する。 ・笛を取られた主人公の気持ちを考える。 ・まさとをどうしても許せない主人公の気持ちを考える。 ・まさとからもらった笛をそっと口にあてた時の主人公の気持ちを考える。 ・下を向いているまさとのそばに行き、手を開いた主人公の気持ちを考える。	笛を取られたはなは、いやいやをしながら心の中で何と言っているのでしょうか。 ・せっかく作ったのに、返してよ。 ・まさとくんのいじわる。 ・はらが立つなあ。 涙が止まらないはなはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・絶対にゆるしてあげない。 ・わるいのはまさとくんなのに。 ・まさとくんなんか、きらいだ。 まさともらった笛をそっと口にあてながら、はなはどんなことを思っていたのでしょうか。 ・笛を作ってくれたのは、仲直りのしるしなんだな。 ・まさとくん、悪いと思ってくれていたんだ。 ・いつまでも泣いていたら、だめだな。 だまったままぎゅっと握りしめていた手を開いたはなは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・昨日はいつまでも泣いて、ごめんね。 ・まさとくんが謝ってくれたのはわかってるよ。 ・一緒に笛をふこうよ。 ・これからも仲よくしてね。	・資料を範読する。 ・気持ちよく吹いていたからすのえんどうの笛を取られた主人公の心に共感させる。 ・まさとのお詫びの気持ちに気付かず、どうしても許せない主人公の心を考えさせる。 ・仲よくならんた笛を見たことがきっかけとなり、まさとの思いに気付き、友達のよさを感じ始めている主人公の心を考えさせる。 ・友達のよさをより強く感じ、「まさとくんと仲よくしよう」という気持ちになった主人公の心情の高まりをおさえる。
終 末	・感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。	

実践紹介 — 紙芝居でストーリーをつかむ —

- ◆ 低学年児童にとっては、話が長く内容を十分理解できないと思われたので、視覚を通して場面展開やはなの心情の変化をとらえやすくするためには「紙芝居」が有効であると考え、2枚の挿絵以外に5つの場面を追加して、合計7枚の紙芝居に仕立てた。紙芝居は、児童が話の流れを理解するのに効果的であった。

そのため、中心発問では「すうっとしたように気持ちがいい」「まさとが自分のために作ってくれた」「返してもらってうれしい」「まさと一緒にふきたいと思った」「2つあるから、1つはまさとにあげて分けっこしよう」等、いろんな意見が出てきた。



①表紙・はじめ



②おいかけのはな



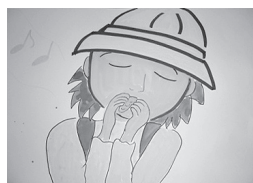
③悲しいまま家に帰る



④泣きやまないとはな



⑤2つの笛に気づく



⑥気もちがかわるはな



⑦仲直りするはな

資料提示の工夫（紙芝居）

兵庫版道徳教育副読本の読み物資料の中には、「読みごたえのある資料」がある。そのような資料を使用する場合、特に低学年においては、発達段階を考慮して、挿絵や紙芝居で児童の想像力を補うことは有効である。紙芝居で資料提示をする場合には、資料の本文をそのまま利用することもあるが、教師が絵を用いながら、生の言葉で資料のストーリーを語る方が児童には分かりやすい。

一方で、紙芝居による資料提示では、資料が児童の手元にないために文章や言葉に立ち返ることができないデメリットもある。副読本を開かせて、これを紙芝居にしたことを伝え、児童が文章を確認できるようにしておくことも考えられる。

紙芝居は、文中の挿絵に新たな場面を加えることが多いが、どの場面を加えるかは資料分析に基づいて吟味する必要がある、いたずらに多くの場面を加えることには配慮を要する。

資料提示は、映像、音声、文字の順に児童生徒が得る情報は少なくなっていく。その分、児童生徒の想像力が必要となる。

情報量	文字資料	<	音声資料	<	映像資料
想像力	文字資料	>	音声資料	>	映像資料

生活経験の少ない低学年児童にとって想像力を補うために有効な映像も、高学年や中学校では映像にとらわれて、かえって多様な感じ方や考え方が出にくい場合があることにも留意することが必要である。言葉から、自分の経験や体験に照らして、想像力豊かに場面を思い描き、主人公に自己を投影させて考えることは、重要なことである。いずれにしても、発達段階に応じた資料提示の工夫を図ることが必要である。

おじいちゃんのふえ ー三木市 小林のししまいー

- 1 主 題 名 あきらめない心
- 2 内容項目 1 - (2)
- 3 ね ら い おじいちゃんとのふえの練習で道徳的に変化するひろしを通して、何事にも粘り強く努力しようとする道徳的実践意欲を育てる。
- 4 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	・ 篠笛の音を聞く。	先生が篠笛を吹いてみます。 ・ なかなか出ないね。 ・ むずかしそうだね。 ・ お祭りの笛だね。	・ 実演して見せ、笛の音がなかなか出ないことをおさえ、本時の資料への興味付けを図る。
展 開	・ 資料を黙読する。 ・ 公民館から出てきた時の主人公の気持ちを考える。	一人で公民館から出てきた時、ひろしはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・ お兄さんたちのように上手に吹けないな。 ・ 練習しているのにできずにくやしいな。 ・ お祭りに出るのはやめようかな。	・ 資料を範読する。 ・ 笛を上手に吹けるようにがんばろうという気持ちはあるが、うまくできずに気落ちしている主人公の心に共感させる。
	・ 家で練習しながら、泣きそうになっている主人公の気持ちを考える。	家で練習を始めたが、いい音が出せず、泣きそうになっているひろしは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ ああ、やっぱりだめだ。 ・ どうしても上手く吹けないよ。 ・ お祭りに出るのはあきらめよう。	・ どうしても笛を上手に吹けずに落ち込み、向上心を持って努力する気持ちが弱くなっていることをおさえる。
	・ おじいちゃんと一緒に練習したいと思うようになった主人公の気持ちを考える。	おじいちゃんと練習している時、ひろしはどんな気持ちになったのでしょうか。 ・ おじいちゃんが一緒にふいてくれて心強い。 ・ おじいちゃんのおかげで、うまくふけてうれしい。 ・ 上手になって、楽しくなってきた。 ・ もっと練習して上手になる。	・ おじいちゃんの話がきっかけとなり、向上心を持って努力する意識が主人公に起こっていることをおさえる。
	・ ぎゅっと笛をにぎりしめている時の主人公の気持ちを考える。	笛をぎゅっとにぎりしめたひろしは、どのようなことを考えているのでしょうか。 ・ あきらめずにおじいちゃんと練習してよかった。 ・ もっと練習しておじいちゃんのように上手になるよ。 ・ お祭りではがんばるから、おじいちゃん見に来てね。	・ 笛の上達をおじいちゃんに認められ、向上心を持って努力する意識が高まり、主人公が「もっと上手になるぞ」という実践意欲を強めていることをおさえる。
終 末	・ 録音した篠笛の音色を聞く。	篠笛の音を聞いてみましょう。	・ 篠笛の音色を聞かせ、主人公の努力に思いを馳せ、余韻をもたせる。

実践紹介 — 子どもたちから拍手が起こった —

- ◆ 本校では、基礎的計算力の向上のために、九九の全てを90秒以内に唱えることができるまで練習を行う。児童は学校や家庭で3ヶ月間毎日練習をするが、かなりの練習を積まなければならない。

このような体験をしている児童が、主人公の心情に触れることは、自分の心や仲間のがんばりを見つめ直すことにつながると考えた。また、そのことが自尊感情に資する自己肯定感の高まりにつながると考えた。

中心発問では多様な意見が出てきた。話し合いの中で、主人公の笛のがんばりと自分ががんばっていることを重ね合わせている児童が多くいた。

【拍手が起こった前後の授業記録】

教師の発問・指示	児童の反応
笛をぎゅっとにぎりしめたひろしは、どのようなことを考えているのでしょうか。	(略) A) 私もね。ひろし君の笛と同じように、7の段が何回練習しても覚えられなかった。そんなとき、お母さんがずっと一緒に励ましてくれた。お風呂でも練習をしてくれた。できたとき、ほめてくれた。だからひろし君ももう笛が吹けないと思ったけど、笛が吹けるようになったのは、いっぱい練習したからだと思う。いっぱい練習してできるようになったら、本当にうれしいと思う。そしてほめられたら、もっとうれしいと思う。だから私も九九をがんばりたい。 ～児童たちから自然と拍手が起こった～ B) 私もうがんばっているからAさんと一緒。この前、たくさん練習してできるようになったときうれしかった。だからAさんもがんばれと思って拍手した。 C) ぼくも九九をひろし君のようにがんばっている。 D) 私はおかあさんと一緒にさかあがりを練習して、できるようになってきた。もっと上手になりたいと思ったから。 E) Aさんのがんばっていることがすごいなと思ったので拍手をした。
・どんな思いで、拍手をしたの？	

授業記録は、Aの発言をきっかけに授業で深まった道徳的価値から自分の体験を振り返ることができたことを示している。低学年は高学年と比べて、実体験が少なく、語彙数も少ない。そこで道徳の時間と関連させることは、自分の思いを表現させるには効果的な支援であり、道徳的価値を深めていくことにも有効であると考えた。

計画的、発展的な指導計画の作成

中心発問による話し合いを進める中で、自分の経験と結びつけた発言がきっかけとなり、それぞれの児童が自分の体験を振り返ることで、「粘り強く努力しよう」とする道徳的実践意欲が高まっていき、拍手という行動に表れたものと考えられる。

道徳の時間は、道徳の時間以外における道徳教育や学習活動と関連を図りながら、計画的、発展的に指導することによって、指導の効果を一層高めることが期待できる。道徳の時間は道徳的実践力をはぐくむ時間であり、道徳的実践力は、徐々に、しかも、着実に養われることによって、潜在的に、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導が必要である。

オオムラサキのたん生

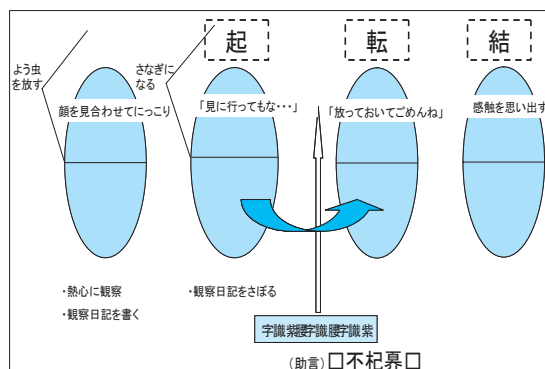
- ## 4 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・ オオムラサキの写真を見せる。	オオムラサキって知っていますか。 ・ きれいなちょうちょだね。 ・ 見たことないよ。	・ 写真提示により、本時の学習への意識付けをする。
展開	・ 資料を黙読する。 ・ こうた君と顔を見合わせてにっこりした時の主人公の気持ちを考える。 ・ 先生から観察日記を書いていることを注意された時の主人公の気持ちを考える。 ・ 指で触れたさなぎがはげしく動いた時の主人公の気持ちを考える。	観察日記を書きながら、こうた君と顔を見合わせてにっこりしたたいき君は、どんなことを思っていたのでしょうか。 ・ 大きくなるのが楽しみだね。 ・ きれいなオオムラサキになって飛ぶ姿を早く見たいね。 「かれてるみたいで、見に行ってもな…」と言った時、たいき君は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ 動いて葉っぱを食べないと、見てもおもしろくないな。 ・ もうかれて死んでしまったのかもしれないしな。 ・ 毎日同じ様子を日記に書いてもしかたないよ。 「放っておいてごめんね。」と小さな声で言った時、たいき君はどんなことを思ったのでしょうか。 ・ ちゃんと生きているんだね。すごいな。 ・ 動かないからといって、見に行かなくてごめんね。 ・ 動かなくても、さなぎの中で大きくなっていたんだね。 ・ 勝手にかれていたみたいだと思ってしまっごめんね。	・ 資料を範読する。 ・ よう虫の成長を楽しみにしている主人公の心に共感させる。 ・ 主人公が観察日記を書けなくなったのは、さなぎに命の存在を感じていないからであったということをおさえる。 ・ さなぎがはげしくふるえ、たさなぎがきつかけとなり、驚いている主人公の心に共感させる。
閉	・ さなぎを触った時の感觸を思い出している主人公の気持ちを考える。	飛び立つオオムラサキを見ながら、たいき君はどんなことを考えていたのでしょうか。 ・ あの時のさなぎの中の命が飛び立ったんだね。 ・ ちゃんと強く生きるんだよ。 ・ これからもオオムラサキの命を大切に守るよ。	・ ブルッ、ブル、ブルッという感觸を思い出し、生命の存在を実感している主人公の心情の高まりをおさえる。
終末	・ オオムラサキの羽化の様子をビデオで視聴する。	オオムラサキの羽化の様子をビデオで見ましょう。	・ 飛び立つオオムラサキを見ながら、命のすばらしさを感じている主人公に共感させる。

実践紹介 — 「ブルッ、ブル、ブルッ」を疑似体験 —

◆ 本資料は、主人公が道德上の問題で変化する資料である。そこで主人公の心情の変化を次のように分析し、発問構成を考えた。

- ① 主人公が幼虫からさなぎになるまで、休み時間にも、給食後すぐにも様子を見に行く気持ちを考え、主人公の成虫に成長していく期待や願いを問う発問。
- ② 主人公が蛹化後、色が白色化し動かなくなったさなぎに関心が低くなった時の気持ちを考えさせる発問。
- ③ 実際にさなぎに触れ、激しく震える体験から、生きていることを実感したときの気持ちや関心が低くなっていたことを振り返った気持ちを考えさせる発問。
- ④ 朝から昼までかかった羽化後、飛び立つオオムラサキを見る主人公の気持ちにふれさせる発問。



中心発問は主人公が道德的な変化をした直後の③の場面とし、そのことによって生命の尊さを感じとり、生命を大切にしようとする心情を考えさせた。

◆ この資料は、オオムラサキのさなぎに触れると大きく震えた体験が、主人公を道德的に変化させる。主人公が道德的に変化する前の気持ちをとらえさせることはとても大切である。そのために、「かれているみたいで、見に行っても・・・」の「・・・」に焦点をあて、観察に意欲をなくしたときの心情を考えさせた。さなぎに触れた瞬間の主人公になりきれるように、「ブルッ、ブル、ブルッ。」とさなぎが震える動画を丹波の森公苑の許可をいただき提示した。(丹波の森公苑が作成した「オオムラサキの生態」より)



3の視点における映像の活用

3の視点「主として自然や崇高なものとかかわりに関すること」では、それにかかわる児童の体験が乏しく、直観できにくい場合が多い。そこで、実践例のように、映像を用いることは効果的である。

「兵庫型」体験教育などの体験活動を道德の時間に生かす

体験活動は、多様な価値を含んでおり、子どもは体験活動をする中でたくさんの規範と出会っている。

体験活動と道德の時間を連携させるには、体験活動を行うときに、道德の時間に扱う価値にふれさせることが必要である。例えば、「郷土愛」の場合は、郷土に尽くした先人の思いを印象づけておく。「生命尊重」の場合は、生きている命にふれさせる工夫をするなどである。

そろばんづくり —小野のそろばん—

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 主 題 名 | 働くことの意味 |
| 2 | 内容項目 | 4 - (2) |
| 3 | ね ら い | 宮本さんとお母さんの話を聞いて道徳的に変化する主人公を通して、働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働こうとする道徳的心情を育てる。 |
| 4 | 展 開 | |

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・本資料に興味を持つ。	そろばんで遊んでしまったことはありませんか。 ・ないよ。 ・転がして遊んだことがあるよ。	・主人公と同様の経験を想起させることにより、興味付けをする。
展開	・資料を黙読する。 ・母にしかられた時の主人公の気持ちを考える。 ・母がそろばんを差し出した時、うつむいたまま顔をあげられないでいた主人公の気持ちを考える。 ・そろばんをすぐに両手で持ち直した主人公の気持ちを考える。	お母さんにしかられて、そろばんをゴロゴロ動かししている手を止めた時、かずはどう思ったのでしょうか。 ・びっくりした。そんな大きな声でしからなくてもいいのに。 ・何でそんなに怒っているんだろう。 ・そろばんをゴロゴロしていただけなのに。 うつむいたまま顔をあげられないでいたかずは、どんなことを思っていたのでしょうか。 ・毎日工夫しながら50年以上もそろばんを作っているのに、失礼なことを言っちゃったな。 ・指先の感覚で0.1ミリのちがいがわかるなんて、そろばん作りはすごい技術が必要な仕事だったんだ。 ・ここまで使う人のことを考え、気持ちをこめて作っているんだ。知らなかった。 そろばんをすぐに両手で持ち直したかずは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・おっちゃんがそろばんにこめた「心」の重さ。 ・このそろばんには、宮本さんの使う人を使う気持ちがぎっしりつまっていて重みがあるな。 ・このそろばんには、50年間の仕事の努力や工夫がぎっしりつまっていてずっしり感じるな。	・資料を範読する。 ・主人公は、軽い気持ちでそろばんを転がして遊んでいたことをおさえる。 ・そろばん作りの高い技術や職人の思いに関する宮本さんの話を聞いて、主人公が働くことの意味の重さを意識し始めていることをおさえる。 ・宮本さんの話とお母さんの話がきっかけとなり、働くことの意味の重さや大切さをさらに強く感じている主人公の心情の高まりをおさえる。
終末	・宮本さんのインタビュー映像を視聴する。	宮本さんのインタビューを見ましょう。	・働くことの大切さについて考えを深める。 ・余韻をもたせる。

実践紹介 — そろばんを両手で持った子どもたち —

◆ 「導入」で、そろばんに触れさせ、授業に興味を持たせる。

「展開」では、「すぐに両手で持ち直したかずの気持ち」を問い、最高のそろばんを作る宮本さんの思いや作った人の心を大事にするお母さんの気持ちに気づかせることで、かずになって、仕事に気を抜かず一生懸命取り組むことや気持ちをこめて働くことの大切さについて深く考えさせる。

「終末」では、宮本さんが仕事をしながらインタビューに答えている短い映像を見せ、再びそろばんに触れさせることで、誇りや喜びを持って真摯に働くことを大切にしようとする道徳的心情を育てる。

◆ 中心発問は時間をかけてじっくり（15分～20分）と考えさせることにした。



中心発問

急に手にとって見たくなったね。最初は右手、そして両手で持ち直したんだね。かずはどう思ったんだろう。

子どもの反応：「遊んではだめだったんだ」「大切に使おう」「心がぎゅっしりつまっている」「心がこもっているからずっしりと重く感じた」など

補助発問

何が重たく感じたの？もう少し詳しく聞かせて。

子どもの反応：「一人でも多くの人に使ってもらいたいという気持ち」「いろんな努力をしているから重く感じた」「宮本さんの一人でも多くの人に使ってもらいたいという愛情」「努力や愛情がずっしりこもっている」など

補助発問

宮本さんの気持ちだけがこもっているのだろうか？

子どもの反応：「お母さんの気持ち」「この子にも大切に使ってもらいたいという気持ち」「他のそろばんには代えられない」「宮本さんの気持ちがこもっているからこの子にもちゃんと使ってほしい気持ち」など

宮本さんの映像を見た後、「最初に見せたそろばんが宮本さんの作られたそろばんですよ。」と告げると、「持ちたい」という声があがる。

導入でそろばんを見せたときは、無造作に片手で持って、後ろの席に回していた子どもたちだったが、終末では、そろばんの持ち方が違っていった。主人公のかずと同じように、両手で持って、その重さを確かめ、そして玉をはじいていた。「重たい」「最高によかった」「めっちゃとまる」など、口々に言いながら、大事なものを抱えるようにして両手で持ちそっと後ろの席に回したのである。

主人公になりきり疑似体験

宮本さんの映像のみでは、子どもたちは、外から見ていただけなので、そうか、そうなのかと上っ面で思うだけになる。読み物資料の主人公かずになりきって、宮本さんとお母さんの思いを考えていくことで、かずの変化を自分のように感じた子どもたちは、そろばんを重いと実際に感じ、かずがしたように両手で持ったのである。道徳の授業では、主人公になりきって、主人公が会える道徳的価値に共に会える疑似体験が、子どもの道徳的实践力を育成することになる。

ぼくの町のたからもの ー平之荘能舞台ー

- 1 主 題 名 わたしのまちの宝物
- 2 内容項目 4 ー (5)
- 3 ね ら い 6年生の演じる狂言を見て、寒さを忘れいつのまにか不思議な空間の一員になり道徳的に変化する主人公を通して、地域の伝統文化に積極的にかかわろうとする道徳的実践意欲を育てる。

4 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	これは何の写真でしょう。 ・舞台 ・昔の格好 ・子どもが演じている。	・平之荘能舞台の写真を見せる。 ・「能舞台」や「狂言」等の語句の説明をする。
展 開	・資料を黙読する。 ・宮司さんの話を聞いている主人公の気持ちを考える。 ・開演時の6年生のあいさつを聞いている主人公の気持ちを考える。 ・終演時の6年生のあいさつを聞いている主人公の気持ちを考える。 ・みんなと一緒にうなずいた時の主人公の気持ちを考える。	開始前の宮司さんの話を聞いているぼくは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・狂言は古くから伝わっているようだけれど、興味がないよ。 ・こんなに寒くちゃ楽しめないよ。 ・早く終わってくれよ。 ・どうして誰も文句を言わないのかな。 狂言が始まる前の6年生のあいさつを聞いているぼくは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・6年生は真剣だな。 ・見ている地域の人たちも真剣だな。 ・ぼくだけが取り残されているみたいだ。 ぼくは、どうして寒さをわすれたのでしょうか。 ・舞台のすばらしさや熱気を感じたから。 ・みんなと一体感を感じたから。 ・胸をはって堂々と舞台に立つ6年生がかっこよかったから。 「はやく6年生になりたいね」と誰かが言った時、みんなと一緒にうなずいたぼくは、どんなことを思っていたのでしょうか。 ・ぼくも6年生になったら狂言をがんばりたい。 ・たくさんの地域の人々に観てほしい。 ・ぼくもこの地域の一人としてがんばるぞ。	・資料を範読する。 ・寒い中を待ち、能舞台や狂言発表会の話に興味をもてない主人公は、地域の伝統に親しもうという意識が低いことをおさえる。 ・地域の伝統を受け継ぐことを誇りに思ってあいさつをする6年生と真剣に聞くみんなに囲まれて、取り残されたように感じる主人公の心を考えさせる。 ・演じる側と見ている地域の人々が一つになったような不思議な空間がきっかけとなり、郷土の伝統文化を大切にすることのすばらしさを主人公が感じていることをおさえる。 ・主人公の「郷土の伝統文化を大切にしよう」という心情の高まりをおさえる。
終 末	・授業の感想を書く。	今日の授業で感じたことを書きましょう。	・本時の学習を振り返らせる。 ・余韻を味わわせる。

実践紹介 — 中心発問で考えを深める —

- ◆ 本校の研究課題は、「中心発問でたっぷり時間をとり、子どもとやりとりをしながら主人公の気持ちを深く考えさせる授業づくり」である。そのために大切なポイントを次の2点とした。

① 中心発問に入るまでの時間の短縮

できるだけ短時間で、中心発問で考えを深めさせたい主人公の気持ちや道徳的価値に関わるキーワードをしっかりとっておくことが重要である。そこで、「能舞台」や「狂言」など、児童に馴染みのない言葉の意味やイメージを導入の中で伝え、教材の中に入れていけるよう工夫をした。そして、範読後の基本発問で、主人公が狂言に興味がないことや、取り残されている気持ちであることを捉えさせた。少ない発問で、道徳的に変化する前の主人公の気持ちを考えさせ、時間短縮を図った。

② 子どもの考えを深めるためのやりとり

本学級の児童は、抽象的で簡単な言葉でまとめて発表する傾向にある。そのために、中心発問では予想される児童の反応をできるだけたくさん書き出し、どの部分をさらに問えば、深い主人公の思いを児童が共感的に考えることができるのかを検討した。多くの児童に発言させること、十分な時間をとって考えを深めさせることを大切に、考えを深めるやりとりが楽しいと感じるような雰囲気をつくりたいと考えた。

【授業記録】

教師の発問・指示	児童の反応
「はやく6年生になりたいね。」と言った時、ぼくはどうしたの？うなずいた時のぼくは、どんなこと、思ったの ・そういうのとは？ ・狂言はいつ出来たの？ ・昔からあるものを6年生は演じているんだね。6年になって、演じてみたいと思ったんだね。 ・狂言ってかっこいいな。自分もやってみたいと思ったんやな。 ・続けていることを見てほしいと思ったんだね。 ・どんなように？ ・次は、自分もやりたいんだ。 ・知ったから？ ・何で？ ・題名になっているね。宝物だから、次の人に伝えていきんだね。	・みんなといっしょにうなずいた。 ・早く終わってほしかったが、見たらかっこよかったから、そういうのを自分もしてみたい。 ・狂言です。 ・800年くらい前の鎌倉時代からです。 ・狂言でかっこいいな。 ・6年がやってくれたのは、かっこよかった。自分もやってみたい。 ・他の全校生に見てもらい、あこがれてもらいたい。 ・昔のことを続けていることを見てほしい。 ・自分も6年生になったら、かっこいい、もっといい狂言をしたい。 ・6年を見て、僕らも真似したい。 ・堂々とした所とか、面白い所を見せたい。 ・この学校に来て、狂言の面白さを知った。 ・面白かったから、早く6年生になってやりたい。 ・みんなと一緒にしたい。 ・6年の堂々とした姿を見たから。 ・狂言はぼくらの町の宝物。 ・狂言は、みんなの宝物で、次の人に伝えていきたい。

中心発問の重要性

中心発問では、多様な感じ方や考え方を出し合うだけでは十分な話し合いとは言えず、教師の発問等により、出された多様な考えをもとに、比べ合い、違いの意味を確認しあったり、対立し、議論するなど、児童の考えを深めていくことが大切である。事例では、教師がさらに行った問いかけにより、「自分もやってみたい」という思いが、「かっこいい」→「狂言は面白い」→「狂言はみんなの宝物」と、郷土の伝統文化を大切にしようという方向へと高まりを見せている。

私、お医者さんになる —横山 醇—

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 主 題 名 | 人のためにつくす |
| 2 | 内容項目 | 2 - (2) |
| 3 | ね ら い | 病気で苦しんでいる人を救いたいという夢を貫いた横山醇を通して、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする道徳的心情を育てる。 |
| 4 | 展 開 | |

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・学習する道徳的価値に関心をもつ。	最近、相手の立場に立って親切にしたことはありませんか。	
展開	- 資料を黙読する。 - 医者になると宣言した時の主人公の気持ちを考える。 - 不平不満を口にする仲間を励ます主人公の気持ちを考える。	醇は、どんな思いで「わたし、お医者さんになる。」と宣言したのでしょうか。 - 病気で苦しんでいる人を救いたい。 - 医者になれば、病気に苦しむ人を治すことができる。 「ここでくじけてはだめよ！」と仲間たちを励ます醇は、どんなことを考えていたのでしょうか。 - 私もくやしいけれど、医師になる夢を捨てたくない。 - 病気で苦しむ人が私たちを待っている。	- 資料を範読する。 - 主人公が子どもの頃から「困っている人を助けたい」という気持ちを持っていることをおさえる。 - 主人公が「困っている人を助けたい」という信念を持ち続け、困難な状況を乗り越えようとしていることをおさえる。
開	- 再び東京に行き、実地での研修に打ち込む主人公の気持ちを考える。 - 子どもの目を見てうれしそうに微笑みかける主人公の気持ちを考える。	医師免許状を手にした後も、なぜ醇は再び東京に行き、実地での研修に打ちこんだのでしょうか。 - ほんとうに患者の立場に立つ医療ができる医師になりたいと思ったから。 - まだまだ患者の経験が足りないと思ったから。 子どもの目を見て、ただうれしそうに微笑みかけながら、醇はどんなことを思っていたのでしょうか。 - 病気で困っている子どもたちを自分の手で助けることができてうれしい。 - 診察した子どものお母さんが心から喜んでくれることがとてもうれしい。 - これからもみんなに安心してもらえるよう、患者さんの立場で考えることができる医者になろう。	「真に患者の立場に立ちたい」と相手の立場に立って親切にしようとする主人公の心を考えさせる。 「困っている人のために思いやりをもって接しよう」という心情が、主人公を支え続けていることをおさえる。
終末	・心のノートを読む。	心のノートのP 44～P 45「あなたの心にあるそのあたたかさ」を見ましょう。	

実践紹介 — 「生き方を貫く資料」の主題に迫る —

- ◆ 今回の授業では、中心発問に対する児童の発言は、大別すると3つの内容項目に関するものだった。①「苦しんでいる人を救いたい」「いろんな人の笑顔が見たい」等、人のためにつくす・親切・思いやりに関する発言（2－（2））②「自分の進んできた道は間違っていなかった」「くじけないでよかった」等、初心を貫き、あきらめないに関する発言（1－（2））③「応援してくれる人がいた」「お父さんが背中を押してくれた」等、支えてくれた人への感謝に関する発言（2－（5））である。

主題を頭に置いて授業を展開したのだが、主題である2－（2）に焦点づけることができなかった。中心発問で予想される児童の反応を考えて、発言のどの部分をさらに問えばよいかを準備していたが難しかった。発言に対してさらに何をどう問うかが重要であることがわかった。

しかし、道徳の授業についての研修を積む中で、骨格のある授業構成や児童の発言の引き出し方など新たな発見があり、授業の難しさと楽しさを感じることができた。

主題に迫る授業にするために

中心発問に時間をかけて、児童の発言を引き出す授業が理想的である。しかし、中心発問での児童の発言は、主題に関わったものでない発言も出てくる。そういう発言も受容しながら、次第に児童が主題について深く考えられるように授業展開をすることが大切である。

○発問の前に状況説明

- ㊦ この授業の場合、中心発問で③「支えてくれた人への感謝の気持ち」が出ているが、これは中心発問になっても、子どもが資料の最初の部分にこだわっているからである。次の展開に進んでいるのに、子どもがまだそこにとどまっているのだから、発問と発問の間に、話の流れを十分思い浮かべるように説明をして、次の発問に入っていくとよい。（P2 参照）
- ㊧ また、中心発問で②「初心を貫き、あきらめない」の発言が出ているが、これは子どもが2番目の発問「ここでくじけてはだめよ！と仲間たちを励ます醇は、どんなことを考えていたのでしょうか」にこだわっているからである。これも㊦で述べたのと同様に、中心発問にもっていくまでに、子どもが状況をよく把握できるようにすることが望ましい。
- ㊨ 先人に関する資料は、誰を取り上げている場合でも、さまざまな苦勞を乗り越えていく強い意志は入っているものである。中心発問で、①「親切・思いやり」に至るためには、前の発問の箇所で、「親切・思いやり」にふれる必要がある。この場合だと、最初の発問では、病気で苦しんでいる人を救うという病人に対する親切や思いやりが、深い人間愛に根ざしていることをおさえておかなければならない。

○子どもの発言を手がかりにさらに問う

「くじけないでよかった」「医者になれてよかった」と子どもが答えたとき、「どういうこと？」「何でよかった？」と1－（2）の発言を手がかりにしながらさらに問う必要がある。さらに問うことによって、醇が最初に思っていた「病気で苦しんでいる人を救うの」という言葉の背景にある深い人間愛（2－（2））に迫ることができる。

未来にのこそう 私たちの浄土寺

- 1 主 題 名 郷土の誇り
- 2 内容項目 4 - (7)
- 3 ね ら い 阿弥陀堂に入ってその神々しさに息をのんだひとみを通して、郷土を愛し、伝統と文化を継承しようとする道徳的心情を育てる。
- 4 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	・学習する道徳的価値に興味を持つ。	この市で、古いもの・歴史あるものという何を想像しますか。 ・古墳 ・お寺	・市内で歴史のある建物等の写真を提示し、資料への興味付けを図る。
展 開	・資料を黙読する。 ・浄土寺に着いた時の主人公の気持ちを考える。	「いまさら浄土寺に来て何が楽しいん? …」と言ったひとみはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・何回も来ているお寺に行っても、おもしろくない。 ・見たいテレビがあるのに、腹が立つ。	・資料を範読する。 ・浄土寺に対して、郷土の誇りという意識が主人公になりをおさえる。
	・お堂に入った時の主人公の気持ちを考える。	お堂に入り、はっと息をのんだひとみは、どんなことを思ったのでしょうか。 ・なんてきれいな! ・すごい!	・主人公が感動し驚いている心に共感させる。
	・初めてお堂に入った自分を恥ずかしく思っている主人公の気持ちを考える。	「ああ、私、何も…。」の続きを、ひとみは心の中で何とつぶやいたのでしょうか。 ・全国的に有名ですごい建物だと分かってなかった。 ・阿弥陀様が、こんなにも美しいことを知らなかった。 ・浄土寺のすばらしさを、知ろうとしていなかった。	・主人公は「何がわかっていなかったのか」を考えさせ、堂内の神々しい光景がきっかけとなり、「浄土寺は郷土の誇り」という意識が主人公に起こっていることをおさえる。
	・振り返ってお堂を見つめる主人公の気持ちを考える。	振り返って阿弥陀様のいるお堂を見つめるひとみは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・浄土寺はふるさとの宝物だな。 ・浄土寺のすばらしさを知ってよかった。 ・浄土寺のすばらしさをみんなに教えてあげたいな。	・「郷土のすばらしい伝統文化を自分も未来に伝えていこう」という気持ちになっている主人公の心情の高まりをおさえる。
終 末	・心のノートを読む。	心のノートのP 104～P 105「見つめようわたしのふるさとそしてこの国」を見ましょう。	

実践紹介 — 発問にこだわれば、子どもの言葉が変わる

事前検討会

主人公が道徳的に変化をする「転」の場面で「『ああ、私、何も・・・』」に続く言葉は何だろう」を中心発問にするか。あるいは、「結」の場面で「『友だちに伝えたい』」とひとみは思っているが、何を伝えたいのだろう」を中心発問にするかという2つの意見がでた。検討の結果、「ひとみがいっぱい伝えたいことって何だろう」を中心発問としてやってみようということになった。

授業・再検討会

5年生で授業をしてみたところ、資料に書いてあることを単語で出してしまいやすい発問だったことがわかり、再検討することにした。

主人公のひとみは、最初は浄土寺に行きたくなかったのだが、そのひとみが浄土寺のお堂に入って変わる。ひとみは浄土寺から出ると振り返って阿弥陀様のいるお堂を見つめる。そしてまた最後にもう一度浄土寺を振り返る。二度も振り返るところに気持ちが変わったことが表れている。そこに着目した中心発問にすると効果的なのではないかと考え直して、「あれほど行きたくないと思っていたひとみなのにどんな気持ちで振り返ったのでしょうか」という中心発問にした。

授業

6年生で授業をしてみると、ひとみと自分を重ね合わせながら、資料中から言葉を探すのではなく、自分の言葉で気持ちを表現することができた。

【授業記録】

教師の発問・指示	児童の反応
行きたくなかったひとみなのに、どんな気持ちで振り返ったのでしょうか ・ 誇らしいって別の言葉で言ったら？ ・ 友だちは、ひとみが誇らしく思ったような浄土寺の様子を知っているのでしょうか。 ・ ひとみは、帰り道にお姉さんとどんな話をして帰ったのでしょうか。 ・ ひとみは、夏休みの間にきっと友だちを誘ってもう一度行ったでしょうね。 ・ お姉ちゃんがひとみに伝えて、ひとみがまた友だちに伝えて、まあ赤ちゃんにも。そうやって浄土寺のすばらしさが伝えられ、ずっと大切に守られていくのでしょうか。	(～略) ・ 今日初めて見た阿弥陀様や浄土寺の美しさを忘れないように覚えておきたいという気持ちがあって振り返りました。 ・ 八百年も前からこわれることなく、守られてきたものが自分の町にあって、今も大切に続けられていることが誇らしい気持ちになった。 ・ 自慢したくなるような気持ち ・ うれしくてたまらない ・ だから、友だちにも見せたいような気持ちになった。 ・ ひとみと同じで知らないと思う ・ いつも遊んでいたけど何も知らなかった。お姉ちゃんと来てよかった。 ・ 阿弥陀様がきれいだった。夕日に照らされて輝いているところを友だちにも見せてあげたいな。 ・ いつも一緒に遊んでいた浄土寺には、私たちが知らないことがいっぱいあったことを友達にも話したいな。 ・ また、赤ちゃんが出来たら、一緒に来て、また遊びたいな。そして、教えてあげたいな。

発問の吟味

どう発問するかによって、子どもの答えは違ってくる。中心発問にいたるまでの前半の問いは、書いてあることを答えてストーリーがわかればよい。しかし、中心発問は、授業の「ヤマ」であるから、ねらいに迫る必要がある。ここで、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えが深められる発問が用意されなくてはならない。子どもが道徳の時間が面白い、楽しいと感じるのは、考えるからである。書いてあることを答えただけでは子どもは満足しない。子どもの欲求に応えるために、中心発問の吟味は最も重要である。

忘れない夏 —嘉藤栄吉—

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 主 題 名 | 挫折を乗り越えて |
| 2 | 内容項目 | 1 - (2) |
| 3 | ね ら い | 家に閉じこもり考え続けた嘉藤さんの頭上に響いた「頭をあげろ！胸を張れ！」という竹山部長の言葉に、道徳的に変化する嘉藤さんを通して、くじけずに希望と勇気を持って前進していこうとする道徳的実践意欲を育てる。 |
| 4 | 展 開 | |

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・今日の資料に興味を持つ。	何をしている写真でしょう。 ・野球 ・始球式の写真	・始球式臨む嘉藤さんの写真を掲示し、高校野球への興味付けをする。
展開	・資料を黙読する。 ・試合が終わり、顔を上げることができない主人公の気持ちを考える。 ・家に閉じこもった三日間の主人公の気持ちを考える。	高田監督の言葉かけにも頭を上げることができなかった嘉藤さんは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・自分のミスで大変なことをしてしまった。 ・どうしたらいいんだ・・・。 ・先輩たちに申し訳ない。お詫びのしようがない。 家に閉じこもって三日間、嘉藤さんはどんなことを考えたのでしょうか。 ・自分のエラーであの大勝負を終わらせてしまった。 ・自分に飛んでこなければこんな思いをしなくてもよかったのに。 ・もう少し1塁よりに飛んでいてくれれば私の守備範囲でなく、こんなに苦しまなかったのに。 ・もう少し2塁寄りに守っていれば、サヨナラヒットで終わり、こんなに苦しまなかったのに。 グラウンドに向かって駆けだした時、嘉藤さんは心の中でどんなことを言っていたでしょう。 ・もう一度がんばろう。 ・閉じこもっても何も解決しない。 ・自分の所にボールが飛んできたのは、偶然ではない。自分を磨かなくては。 ・自分の弱さをはねのけて自信を持てるように努力しよう。 ・もう逃げないぞ。	・資料を範読する。 ・延長 25 回の試合の様子をおさえる。 ・責任の重大さにどうしたらいいかわからない主人公の心を考えさせる。 ・主人公が、自分の失敗を直視する勇気をもてず、挫折感を克服できないことをおさえる。
閉	・チームメイトが待つグラウンドに向かって駆け出した主人公の気持ちを考える。		・頭の上でひびいた竹山部長の言葉がきっかけとなり、主人公が「現実を直視し、くじけずに希望と勇気をもって取り組もう」という実践意欲を強めていることをおさえる。
終末	・「imagine」を読む。	副読本の 107 ページを読みましょう。	

実践紹介 — わたしたちも“逃げない” —

◆ 授業の準備

○ 長文資料の扱い

- ・ 事前に資料を読ませ、難しい言葉は辞書で調べさせておく。
- ・ ピンチを招き緊迫した状況であることは十分理解させるが、展開の中で野球のルールそのものについては必要以上に細かく説明しない。

○ 資料への興味づけ

- ・ 85歳の嘉藤さんが始球式でボールを投げている写真を提示する。
- ・ 当時の長いスコアボードや記念碑の写真を紙芝居風にパワーポイントで見せる。
- ・ 長いスコアボードを作り黒板に貼る。

○ 主人公と自己の一体化

- ・ 児童が嘉藤さんになりきり、自己を投影させて考えられるように発問を考える。
- ・ 試合後、周りからどんなに声をかけられても自分の失敗を責め続け、周囲の沸き立つ様子と対比させて、かけ離れたところにある主人公の心情をしっかりと感じ取らせる。
- ・ 3日間自問し続ける思いを深く考えさせ、今まで体験したことのない主人公の挫折感の大きさに気づかせる。
- ・ 4日目の朝、頭の中で響いた竹山部長の「頭を上げろ！胸を張れ！」という言葉の意味をしっかりと考えさせ、中心場面では未熟な自分を自覚し、「打ち克つには練習しかないんだ」と、グラウンドに向かってかけ出す、前向きに変化した主人公の気持ちを考えさせる。



◆ 児童の感想

- ・ 嘉藤さんからもっと自分を磨け、逃げてばかりだといけないということを教わりました。
- ・ 私だったらこんなミスをしてしまったら、ボールのせいにしてしまうかもしれません。嘉藤さんはボールに試されていると思えたから、またチャンスがある、またがんばろうと思えたのだと思います。
- ・ 一番心に残ったのは「頭を上げろ、胸を張れ」という言葉です。嘉藤さんはずっと失敗から逃げていたけど、その言葉で立ち直れたのだと思いました。失敗を恐れて何もなかったら、自分は何も進歩しないから、失敗から逃げてばかりではいけないなあと思いました。
- ・ 私も部長の「頭を上げろ、胸を張れ」が響きました。嘉藤さんのように私もなりたいたい。
- ・ 私もバレーであと1点というときに、ボールに来てほしくないなあと思ったことがあります。でも、「忘れない夏」を勉強していろいろなことがわかってよかったです。
- ・ ぼくもミスすることがあっても、これからは嘉藤さんのように、またがんばろうと思って、失敗から逃げないようにしたいと思います。

生活にもどさなくても

道徳の授業では、導入で「これまで〇〇だったことはないか」と生活の経験から入り、展開で資料を扱い、展開の後段には資料から離れて、生活に戻さねばならないと思い込んできたふしがある。

しかし、授業後の子どもの感想を読めば、わざわざ自分の生活に戻さなくても自分の生活を振り返っていることがよくわかる。そのためには、子どもが嘉藤さんになりきってしっかり考えていくことのできる発問、例えば「嘉藤さんは、・・・どんなことを考えたのでしょうか。」というように、「嘉藤さんは」を主語にして発問していく。

留さんのボギー ―宮本留吉―

- | | | |
|---|---------|--|
| 1 | 主 題 名 | 真実を求めて |
| 2 | 内 容 項 目 | 1 - (4) |
| 3 | ね ら い | 誠実な生き方をゴルフの中で実現しようとする留さんの行動を通して、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓こうとする道徳的心情を育てる。 |
| 4 | 展 開 | |

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	今日の資料に興味を持つ。	- ゴルフの試合をテレビで見たことがありますか。 - 見たことがある。	
展開	- 資料を黙読する。 - 舌打ちした主人公の気持ちを考える。 - ボギーであることを告げた時の主人公の気持ちを考える。 - セレモニーの舞台に向かう主人公の気持ちを考える。	「ついてないな。」と舌打ちした留さんはどんな気持ちだったのでしょうか。 - あっ、大事なところで一打増えてしまった。 - これでこのホールは、パーも難しくなったなあ。 - こんな大事な場面でどうしてこんな目にあうのだろう。 「いや、ボギーや。六打だ。…」と岡橋さんに告げた時、留さんはどんなことを考えていたのでしょうか。 「そうや、パーや。」と言いたところだが、ボギーなのだ。 - 誰も見ていないとはいえ、ルールはルールだ。 - おれはフェアに戦うから、正直に言うぞ。 - セレモニーの舞台に向かいながら、留さんはどんなことを思っていたのでしょうか。 13番ホールで正直に申告して本当によかった。 - 胸を張れるプレーができてよかった。 - おれはプロゴルファーである前に人間なのだ。	- 資料を黙読する。 - 場面をストーリーの時系列でつかませ、パーとボギーのちがいを説明する。 - 大事な場面で不運な状況に見舞われて嘆いている主人公の心を考えさせる。 - 岡橋さんの「留さん、パーやな」という言葉に大きく動揺することなく、自分への正直さを貫く主人公の生き方をおさえる。 - うそや偽りのない人間らしい誠実な生き方をしようとする主人公の心情をおさえる。
終末	自分の考えを書く。	自分の考えを道徳ノートに書きましょう。	

実践紹介 — 私にもできる、自信がつく、ローテーション授業 —

- ◆ この資料を使って、全てのクラスで「ローテーション授業」・相互参観をしたことで、指導者自身の道徳の授業に対する不安が少なくなったと思える。また、授業力の向上の一助となったと言える。

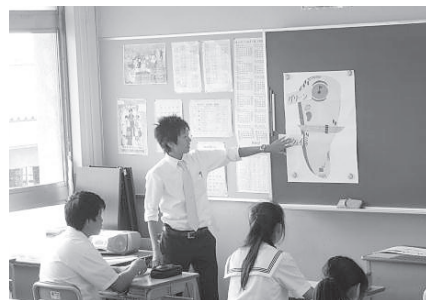
○重点を置いたこと

【授業前】

- ・ 資料を深く読み込み、自覚させたい道徳的価値観を意識して授業に臨む。
- ・ ねらいにせまる発問を考え、予想される生徒の反応はできるだけ多く考えておく。

【授業】

- ・ 生徒が情景を思い浮かべ、主人公になって考えられるように、資料の範読は、メリハリをつけておこなう。
- ・ 生徒の意見を問い直して生徒の心にせまる。
- ・ ワークシートは使わずに、友だちの意見を聞いて、考えを深めさせる。



(1回目の授業をして)

- ・ 生徒の発言に対しての返しを丁寧にする。
- ・ 指導上の留意点に、『『凜』ということばに注目させる』を追加する。
- ・ 声の強弱をしっかりと。範読は、机間巡視をしながらするのではなく、教卓でする。

(2回目の授業をして)

- ・ 中心発問はもっとたくさんの生徒に当てる。
- ・ 絵を使って説明するとき、注目させる。
- ・ 発問の後、生徒に考えさせる時間を長く取り過ぎないようにする。

(3回目の授業をして)

- ・ もっと最後の発問は、「ねらい」に結びつくようにする。
- ・ 生徒の発言に丁寧に反応する。
- ・ 中心発問の前に、もう一度流れをおさらいする。

授業力アップ

実践をする中で、指導者の意識が、『道徳的価値を理解させる授業』から、生徒に主人公になりきって考えさせることで、『道徳的価値を自覚させる授業』に変わってきた。

ローテーション授業による授業力アップ

「道徳の時間」は、学級担任が普段の児童生徒との関係を生かして行うことが原則であることは言うまでもないが、学級担任がある資料を用いて授業を行った場合、その資料を再び使うのは年度がかわり再び同じ学年を担当したときになる。

この実践は、一人の学級担任が、学年の協力を得て、他の学級でも同一資料を用いて授業を行ったものである。授業の反省をすぐ次の授業に生かすことができる、一つの資料を用いて深く研究を進めることができる等の利点があり、道徳の時間の授業力向上が期待できる。例えば、各学級担任が3クラスで活用する資料を決め、3つの資料を学級担任それぞれが分担して3クラスで授業するなど、年間に何回かはこのようなローテーション授業を行い、「この資料を使った道徳の授業は任せて」という自信をつけたい。

そして、その資料の数を増やしていくことで、「道徳の時間」における学級担任の授業力のレベルアップを図りたい。

洋子の播州歌舞伎 ―伝統の若き継承者―

- 1 主 題 名 伝統を受け継ぐ
- 2 内容項目 4 - (9)
- 3 ね ら い 由香里の伝統を受け継ぐ思いについての話や、綾子から歌舞伎に打ち込んでいる自分の姿について教えられたことをきっかけに道徳的に変化する洋子を通して、優れた伝統を継承しようとする道徳的実践意欲を育てる。

4 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	播州歌舞伎の写真を見ましょう。 ・聞いたことがあるよ。 ・テレビでみたことがあるよ。	・多可郡に伝わる伝統文化に関わる話であることを簡単に説明する。
展 開	・資料を黙読する。		・資料を範読する。
	・自転車のペダルを強く踏み込んだ主人公の気持ちを考える。	洋子はどのような気持ちから、自転車のペダルを強く踏んだのでしょうか。 ・部活のみんなには悪いけど、今は歌舞伎に行こう。 ・部活と歌舞伎の両立で悩むのは、もうこれきりにしたい。	・部活と歌舞伎の両立に悩む主人公の心に共感させる。
	・由香里の背中を見つめた時の主人公の気持ちを考える。	更衣室に入っていく由香里の背中を見つめながら、洋子はどんなことを思っているのでしょうか。 ・由香里先輩は、伝統をつなぐことを考えていたのか。 ・私は、伝統なんてことを考えたことなかったな。 ・由香里先輩も続けることに迷ったことがあったんだ。	・由香里が「伝統をつなぐ」ということを考えていたことを知り、主人公に「伝統を継承する」という意識が起きていることをおさえる。
	・師匠の声で我に返った主人公の気持ちを考える。	師匠の声で我に返った洋子は、どんなことを考えたのでしょうか。 ・私、やっぱり歌舞伎が好きなんだ。 ・こうやって歌舞伎を続けることに大きな意味があるんだ。 ・もう迷わない。	・由香里の伝統を受け継ぐ思いと綾子の言葉がきっかけとなり、迷いがふっきれたことをおさえる。
終 末	・「伝統をつなぐ意味が本当にわかった。」と言った主人公の気持ちを考える。	洋子はどんな気持ちで、「由香里さんが『伝統をつなぐ』と言った意味が本当にわかった。」と言ったのでしょうか。 ・伝統をつなぐのは私たちなんだ。 ・こうやって今まで伝統をつないできたんだ。 ・私も由香里先輩に続こう。	・たくさんの観客からの拍手を受け、主人公が「伝統を受け継ぐ担い手になろう。」という実践意欲を強めていることをおさえる。
	・自分の考えを書く。	自分の考えを道徳ノートに書きましょう。	

実践紹介 — 発言キャッチで考えを引き出す —

- ◆ 中心発問を「大学生の由香里と抱き合いながら、洋子はどんなことを思っていたのでしょうか。」として考えさせた。「成功」「やった、うれしい」「続けよう」などの答えが生徒から出ると予想し、補助発問として、「何が成功?」「何がうれしい?」「うれしいのは自分だけか。師匠は? 由香里は?」「伝統をつなぐとは?」を準備しておき、生徒から出る発言をキャッチして、「伝統の意味」を考えようとした。

実際には、生徒の発言の「引き継ぐ」をキャッチして、「伝統芸能をつなぐ」と言った先輩である由香里の思いを問い、「伝統をつなぐことはどういうことか」を考えさせた。

【授業記録】

教師の発問・指示	生徒の反応
・大学生の由香里と抱き合いながら、洋子はどんなことを思ったでしょうか。ここは、じっくりと時間をかけて考えますよ。 ・好きってどういうこと? ・いいですねえ。 ・いいですねえ。 ・いいですねえ。 ・何で伝えたいの? ・いい言葉やなあ。なんでそんなこと思ったの? がんばって! ・由香里はどう思ってる? ・由香里が中学のときはどうやったやろうか? ・おっ? 先輩か。じゃあ、その先輩が中学のときはどうや? ・じゃあ、その先輩が中学のときは? ・何を教える? ・伝統をつなぐってどういうことや? ・バトンを引き継ぐって何をつなぐの? ・ここ(資料)には出ていないけれど、たくさんの先輩がいるんやなあ。君たちのこの中学校にも50年という歴史があるね。たくさんの先輩がいるんやなあ。	A) やっぱ、私は歌舞伎が好き! A) 夢中になれるということ。 B) 成功できて本当によかった。 C) 続けてよかったな。 D) これからもやっていきたい。 E) 自分はこれからも続けるぞ。 F) 本当にいいところを伝えたい。 F) 演じる心を引き継ぎたいから。 F) みんなに応援してもらって感謝しているから。 G) 中途半端だと悩んでいたけど、やってよかったなあって思った。 G) がんばったなあって思ってる。 G) 由香里にも先輩がいた。 G) その先輩にも先輩がいて…。 (みんな笑っている。) H) 300年もの伝統が先輩や。 I) よさを後輩に教えていきたい。 I) 成功の喜び。 J) 失敗の積み重ねの大切さ。 K) 伝統をつなぐことの大切さ。 K) あきらめずにやり続けること。 L) バトンを引き継いでいく。 L) 歌舞伎に込められた思い。

Teachよりも名Catch

「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」とはよく知られた言葉であるが、さらに「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」と続く。

道徳の時間に「話し合う」というが、まさに子どもの発言に耳を傾け、そうかと承認すれば、子どもは育つのである。子どもの発言を「いいねえ」「素敵だね」「なるほど」と受容して、さらに問いを続けていくと、子ども自身が自分でもこんなことを考えていたのかと思えるような言葉が引き出される。このときずっと学級の空気が一変する。これが道徳の授業のねらいに迫っているときではないだろうか。

道徳の時間においては、教えること(teach)よりも、子どもの発言を受容(catch)し、共に考え、悩み、夢や感動を共有するという教師の姿勢が大切である。

運命の木 ―姫路城の大柱―

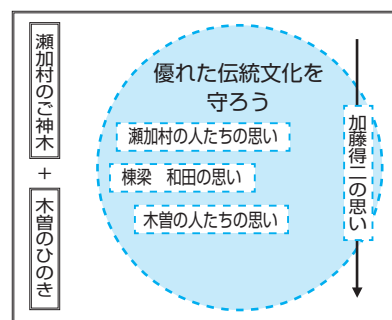
- | | |
|---------|--|
| 1 主 題 名 | 伝統文化を守る |
| 2 内容項目 | 4 - (9) |
| 3 ね ら い | 姫路城の再建に関わる人たちと力を合わせ、成功させた加藤たちの姿を通して、国に伝わる優れた伝統文化を大切に継承しようとする道徳的心情を育てる。 |

4 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・今日の資料に興味を持つ。	姫路城に行ったことがありますか。 ・今、改修中だ。 ・国宝になっている。	・姫路城の写真を見せ、本時の資料への興味付けをする。
展開	・資料を黙読する。 ・そびえ立つ柱を見上げる加藤の気持ちを考える。	そびえ立つ柱を見上げながら、加藤はどんなことを考えていたのでしょうか。 ・大工事になるが、条件に合った檜を探すのは難しいな。 ・日本は森林国なのだから、檜は絶対に見つかるはずだ。	・資料を範読する。 ・巨木の内部が著しく腐食している様子を見ながら主人公の心を考えさせる。
	・ご神木を譲ることを決断した瀨加村の気持ちを考える。	瀨加村の人たちは、どんな思いでご神木を譲ることを決断したのだろう。 ・姫路城を立派に再建したい。 ・姫路城は地域の誇りだ。 ・姫路城に励まされたことを忘れてはならない。	・牛尾が姫路城に励まされたと伝えていることや、瀨加村の人たちが、統ある姫路城を地域の誇り（県の宝）に思っていることをおさえる。
	・懸命に檜を探す木曾の人たちの気持ちを考える。	木曾の人たちは、どんな思いで、だれも足を踏み入れたことのないような奥深い斜面に足を運んだのでしょうか。 ・我々の手で国宝姫路城の大柱を見つけるんだ。 ・日本の誇り姫路城のために、木曾の檜を役立てたい。	・遠く離れた木曾地方でも、姫路城が日本の宝であること、考える人がたくさんいることをおさえる。
	・檜が折れたことを知った時の主人公の気持ちを考える。	しばらく電報を握りしめたまま、動けなかった加藤は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・万事休すだ。 ・もう、姫路城を再建することは無理だ。	・二度目の期待を込めた巨木が折れ、再建の希望を失っている主人公の心に共感する。
閉	・木組みの話を伝えるよ。木組の訪ねた人たちの気持ちを考える。	いぶかる加藤の前でにやりと笑う和田は、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・ここであきらめては、瀨加村や木曾の人たちに申し訳ない。 ・あきらめるなよ。これで姫路城は再建できるぞ。 ・二つの木のように、自分たちも力を合わせよう。	・職人の心意気で大柱を立ち上げる方法を見つけた和田が、加藤に希望を伝えることとおさえる。
	・大柱が立ち上がる時、主人公の気持ちを考える。	加藤の祈りに込められた思いは、何だったのでしょうか。 ・どうか無事に立ってくれ！ ・日本の宝を守ろうという人々の願いが届きますように！ ・治道をうめた人たちの願いが届きますように！	・姫路城を誇りに思い、優れた伝統を守ろうとした人たちがみんなの心情の高まりが、大柱に込められていることとおさえる。
終末	・加藤さんのエピソードを紹介する。		・加藤さんの姫路城への思いが分かる逸話を紹介し、余韻をもって終わる。

実践紹介 — 知れば知るほど「すごい！姫路城」 —

- ◆ 加藤得二、瀬加村の人々、木曾の人たち、棟梁和田という、4者の立場を中心に授業を組み立てた。物語の中心となる加藤はもちろん、自分たちが大切に守り育ててきたご神木を姫路城のために捧げた瀬加村の人たち、遠く離れた木曾の地で懸命になって柱となる木を探した人々、職人としての技術を生かした和田など、思いの底に「何としても姫路城を再建したい」という熱意があり、全ての思いが2本の木が1本の柱となる場面に結集されることを考えさせようとした。
- ◆ 事前取材から得た資料や情報の中から、人々の思いに迫る手がかりとなる写真を提示したり、終末段階で昭和の大改修後の加藤さんの姫路城への思いをエピソードとして紹介したりした。



【笠形神社のご神木】



【搬送中に折れた檜】



【紹介したエピソード】

加藤さんが、時々姫路城に出かけて、ピンポン球を床において傾いていないかを確認していたというエピソードや阪神淡路大震災の時、跳び起きた加藤さんが開口一番「姫路城は大丈夫か」と言ったというエピソードを紹介した。

【その他のエピソード】

加藤さんは城の工事が終わっても「これほど美しい城は世界中探してもない」という思いから、姫路を離れず、終生住み続けた。そして、「建造物はその時代の人の手を経てまた息を継ぐ。次に手が入る時代まで、自分たちの施した工事が無事であってくれと祈りたい気持ちである。」と語っている。

- ◆ 授業の感想で、「たくさんの苦労や感動がつまったこの物語があまり知られていないのがもったいないので、広めていきたいと思った。」という感想があった。「何とかしよう」というみんなの思いを読み取る気持ちの高まりのなかで、伝統文化に対する思いにつながられたのではないかと感じている。

終末に余韻を残す

上記のエピソードは、いつも脳裏に姫路城があった加藤さんを語るにふさわしい心に残る終末である。終末は説論的になりがちだが、話をする場合は短く、余韻を残して終わりたい。

事前に調べるほどに生徒に多くを伝えたいと思うが、姫路城、あるいは大修理には膨大な物語がある。それを知りたいと思う余韻を大切にしたい終わり方が考えられる。この授業の後、「現在改修中の姫路城を調べた」とか「姫路城へ行ってきた」という声が聞ければその意義は大きい。

Ⅲ章 副読本の活用による連携を核とした道徳教育の実践

高砂市の取組

互いの生き方や価値観を認め合い、ともにによりよく生きる子どもの育成 － 幼小中の連携を通して －

はじめに

本市においては、子どもたちの豊かな心を育成するため、校園内の指導体制の整備、道徳教育研修会の実施により、自己の生き方についての自覚を深められるよう道徳教育の充実に取り組んできた。

平成 24 年度は、兵庫県教育委員会より道徳教育推進地域指定を受け、「互いの生き方や価値観を認め合い、ともにによりよく生きる子どもの育成－幼小中の連携を通して－」をテーマとし、高砂市全体で道徳教育のさらなる充実に取り組んだ。

1 全市的な道徳教育推進体制－高砂市道徳教育推進会議－を構築する

道徳教育を計画的に進めるために、まず、高砂市全体の道徳教育推進計画を策定し、推進方向を定める組織として「高砂市道徳教育推進会議」を設置した。次に、各校園の道徳教育推進教師と道徳担当教諭の指導力向上と情報交換を行うため「小・中学校部会」と「幼稚園部会」を設けた。さらに、6つの中学校区ごとに「中学校区連絡会」を設け、幼小中が連携して授業研究等を行うとともに、校区の課題に応じた取組を進めることができるようにした。

2 「道徳の時間」の充実に向けて教職員の授業力の向上を図る

子どもたちの道徳的実践力を育成し、豊かな心を育むためには何よりも道徳教育の要となる「道徳の時間」を充実させなければならないと考えた。

そこで、読み物資料を使って主人公の心の変化に触れながら自己の生き方についての考えを深めさせる道徳の授業ができるよう、高砂市の全教職員を対象に「道徳教育全体研修」、「道徳授業力育成講座」を実施した。研修会においては、読み物資料を使った授業展開の仕方を演習したり、資料の教材解釈のあり方についてグループ討議したりして、実践的指導力の向上を図った。



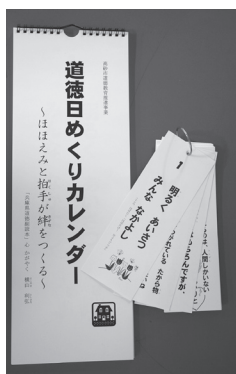
高砂市教職員全体研修

3 兵庫県道徳副読本を活用した「道徳日めくりカレンダー」を作製する

兵庫県道徳副読本は、兵庫ゆかりの人物や自然を取り上げた話、著名人のメッセージなど、地域の特性を生かした教材である。副読本の中から、子どもたちの心に働きかけ、道徳的実践のきっかけとなる言葉や文を選定し、「道徳日めくりカレンダー」を作製した。カレンダーは、高砂市内の小・中学校の全学級の教室と特別教室に掲示し、常に子どもたちの目に触れ、意識づけができるようにした。

また、市内の公民館や図書館にも配布し、市民への啓発も行った。

さらに、カレンダーのミニ版も作製して全家庭に配布し、副読本の内容が家族や地域での話題となり、学校と家庭との道徳教育の橋渡しとなるよう考えた。来年度以降も、新1年生に対してカレンダーを毎年配布していく計画である。



←「道徳日めくりカレンダーおよびミニ道徳日めくりカレンダー

市

高砂市道德教育推進会議

推進内容…①市全体の道德教育推進計画の策定、進捗状況の確認
②中学校区等における道德教育実践研究の推進
③道德教育教職員全体研修および授業力育成講座の計画・実施
④「道德日めぐりカレンダー」の作成

構成…中学校区の代表校長（6）及び担当園長（1）
幼稚園代表主任教諭（1）及び小中学校代表教諭（2）
高砂市連合PTA会長（1）
事務局職員（3）



※必要に応じて
講師を招聘する。

幼稚園部会

推進内容…公開保育の実施
おはなしリストの充実・改善
道德性の芽生え実践事例集作成
構成…担当園長（1）
主任教諭（10）

小・中学校部会（担当者会）

推進内容…授業研究会の実施（小中学校）
重点教材の選定
構成…担当校長（2）
担当教頭（2）
道德教育推進教師（16）

中学校区

高砂中学校区
連絡会

荒井中学校区
連絡会

竜山中学校区
連絡会

松陽中学校区
連絡会

宝殿中学校区
連絡会

鹿島中学校区
連絡会

高砂中学校
高砂小学校
高砂幼稚園

荒井中学校
荒井小学校
荒井幼稚園

竜山中学校
伊保小学校
中筋小学校
伊保幼稚園
中筋幼稚園

松陽中学校
曾根小学校
伊保南小学校
曾根幼稚園

宝殿中学校
米田小学校
米田西小学校
米田幼稚園

鹿島中学校
阿弥陀小学校
北浜小学校
阿弥陀幼稚園
北浜幼稚園

推進内容…①校区課題に応じた取組計画の策定・実施・評価、情報交換
②研修計画、授業研究会の実施
③学校園の取組進捗状況の確認
④「道德日めぐりカレンダー」「ミニ道德日めぐりカレンダー」の活用方法の検討
構成…中学校区代表校長、小・中学校道德教育推進教師、幼稚園道德担当教諭・事務局職員

学校・園

推進内容 ①道德教育推進計画を策定し、学校園全体で取り組む
・全体計画・年間指導計画の充実・改善
・校内研修計画の立案・実施
②読み物資料を活用し、魅力ある「道德の時間」の授業を実践する
・文部科学省副読本、兵庫県道德副読本、おはなしリスト等の教材の活用
・「道德日めぐりカレンダー」を用いた日々の学級指導
③道德教育における家庭・地域との連携を推進する
・「ミニ道德日めぐりカレンダー」の全児童生徒の家庭への配布
・オープンスクールや参観等での道德の授業公開
・学校園だより等による取組内容の啓発



○校種間の連携による兵庫県道徳副読本の「朗読CD」の作成（A中学校の取組から）

A中学校区では、兵庫県道徳副読本を道徳の時間の「読み物資料」とするだけでなく、児童生徒にとってより身近なものにし、副読本に対する児童生徒の興味や関心をさらに高めたいと考えた。そこで、副読本の内容をCDに録音して、音声資料としても活用することにした。作成に当たっては、校区の2小学校と1中学校の道徳教育推進教師が、各校の意見を聞き、小学生用副読本の「ころはばたく」「心きらめく」「心ときめく」の中から録音する作品を選定した。そして、校区連絡会において協議し、10作品を選定して各作品の朗読をCDに収録することにした。朗読は、A中学校の放送部員や希望する生徒たちが担当し、夏季休業中に録音して完成させた。完成した小学校編の朗読CDは、校区の2つの小学校に届けられ、2学期以降、始業前や昼の時間に全校で流されたり、道徳授業の導入時の範読として活用されたりしている。

＜小学生用朗読CDに収録された10作品＞

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| ①おじいちゃんのふえ（ころはばたく） | ⑥愛のひと（心きらめく） |
| ②からすのえんどう（ころはばたく） | ⑦オサムシくん（心きらめく） |
| ③どこんじょういだいこんの大ちゃん（ころはばたく） | ⑧函館で出会った人（心ときめく） |
| ④生まれかわるけしき（ころはばたく） | ⑨未来に残そう私たちの浄土寺（心ときめく） |
| ⑤神戸の水（心きらめく） | ⑩おばあちゃん風呂に入りよ（心ときめく） |



兵庫県道徳副読本朗読CD

校区連絡会では、小学生用に引き続き中学生用副読本「心かがやく」の朗読CDの作成についても検討をした。当初は地域で活動する朗読ボランティアの力を借りて作成しようと考えた。しかし、小学生用は中学生が読み録音しているので、中学生用は高校生に朗読を依頼できないかと考えた。そこで、高砂市内にある3校の県立高校の放送部に、朗読を依頼したところ快く引き受けてもらえ、中学生編の朗読CDが完成することとなった。中学生編は全部で

3枚になり、「心かがやく」の大半の教材がこの中に収録された。

完成したCDは、高砂市道徳教育推進会議で披露され、昨年配備した副読本とともに広く市民に活用してもらいたいという目的で、高砂市内の8か所の公民館と市立図書館へも送付した。中学生編は市内の全中学校へも配布され、各校で活用を進めている。また、副読本やCDについては、高砂市教育委員会のホームページを通じて広報を行い、家庭・地域への啓発を図っている。

このように、副読本の朗読CDの作成を通し、道徳教育のさらなる充実のため、校区の小・中学校及び地域の高校が互いに連携して取り組みを進めた。



朗読を担当するA中学校の生徒

○兵庫県道徳副読本を活用した『道徳親子感想文』の実施（B小学校の取組から）

兵庫県道徳副読本は、兵庫ゆかりの人物や自然、著名人のメッセージを取り上げるなど、子どもたちが、郷土に誇りを持つとともに自己の生き方について考えることができる教材である。また、大人にとっても共感できる内容で、保護者から子どもたちに伝えたいことがたくさん盛り込まれており、家族で一緒に読んで話し合う素材となることも期待できる。

B小学校の校区連絡会では、この副読本の特性を生かし、学校と家庭が連携して道徳教育の充実を図りたいと考えた。そこで、夏休みの課題として校区の2小学校1中学校において、「児童生徒と保護者が、夏休みに持ち帰った副読本から親子で同じ作品を1つ読み、その感想文を書く」という『道徳親子感想文』を実施した。保護者と児童生徒が読む資料は、事前に学校が選定した3作品の中から1作品を選択してもらうようにした。感想文の字数については、どの家庭でも無理なく取り組めるようにと、200字から250字程度とし、校区で用意した同じ用紙に保護者も児童生徒も感想を書くよう計画した。

小学校低学年用<ころはばたく>から課題として選定した3作品

・からすのえんどう ・どこんじょうだいこんの大ちゃん ・生まれかわるけしき－淡路夢舞台－

小学校中学年用<心きらめく>から課題として選定した3作品

・神戸の水 ・オサムシくん－手塚治虫－ ・ここは山田錦のふるさと－藤川禎次－

小学校高学年用<心ときめく>から課題として選定した3作品

・お父さん ・函館で出会った人－工楽松右衛門－ ・甘地の獅子舞

中学生用<心かがやく>から課題として選定した3作品

・伝統をつむぐ－赤穂殿通織り－ ・地図を持たない旅人－湯川秀樹－ ・運命の木－姫路城の大柱－

2学期に集められた感想の内容は、副読本の内容から新たに知ったことに驚いたり、読後の感想を自分の子どもの成長に関連付けたりし、自分の子どもが心豊かな人に育ってほしいという願いが書かれてあるものが多く見られた。「運命の木－姫路城の大柱－」（「心かがやく」）を読んだ家庭では、その後、現在改修中の姫路城へ家族で出かけたという感想もあった。



集まった親子感想文

このように、『道徳親子感想文』の取組を通じて、学校で取り組んでいる道徳教育の内容を保護者が知る機会となった。『道徳親子感想文』で集められた保護者や児童生徒の感想文は、各小・中学校で、2学期の学校便りに内容を掲載した。また、B小学校では、学年便りの「道徳コーナー」に掲載することで保護者への啓発を図った。

－『どこんじょうだいこんの大ちゃん』を読んだ小学校1年生親子の感想文から－

【児童の感想文から】

わたしは、こんなところにだいこんがあるとはおもわなかったのでびっくりしました。

だいちゃんはがんばってはえたのにおられてしまっかなかったです。

でも、さいごはしゅじゅつをしてからこどもたちをつくることになってうれしいです。

【保護者の感想文から】

さやかとゆうじがだいちゃんの成長にはげまされ、元気をもらい、また心ない誰かにだいちゃんが折られた時には、悲しみ心配する気持ちが温かく、娘にも二人の様に植物や動物、生命に対する優しさや思いやりを学んでいってもらえたらと思いました。

朝来市の取組

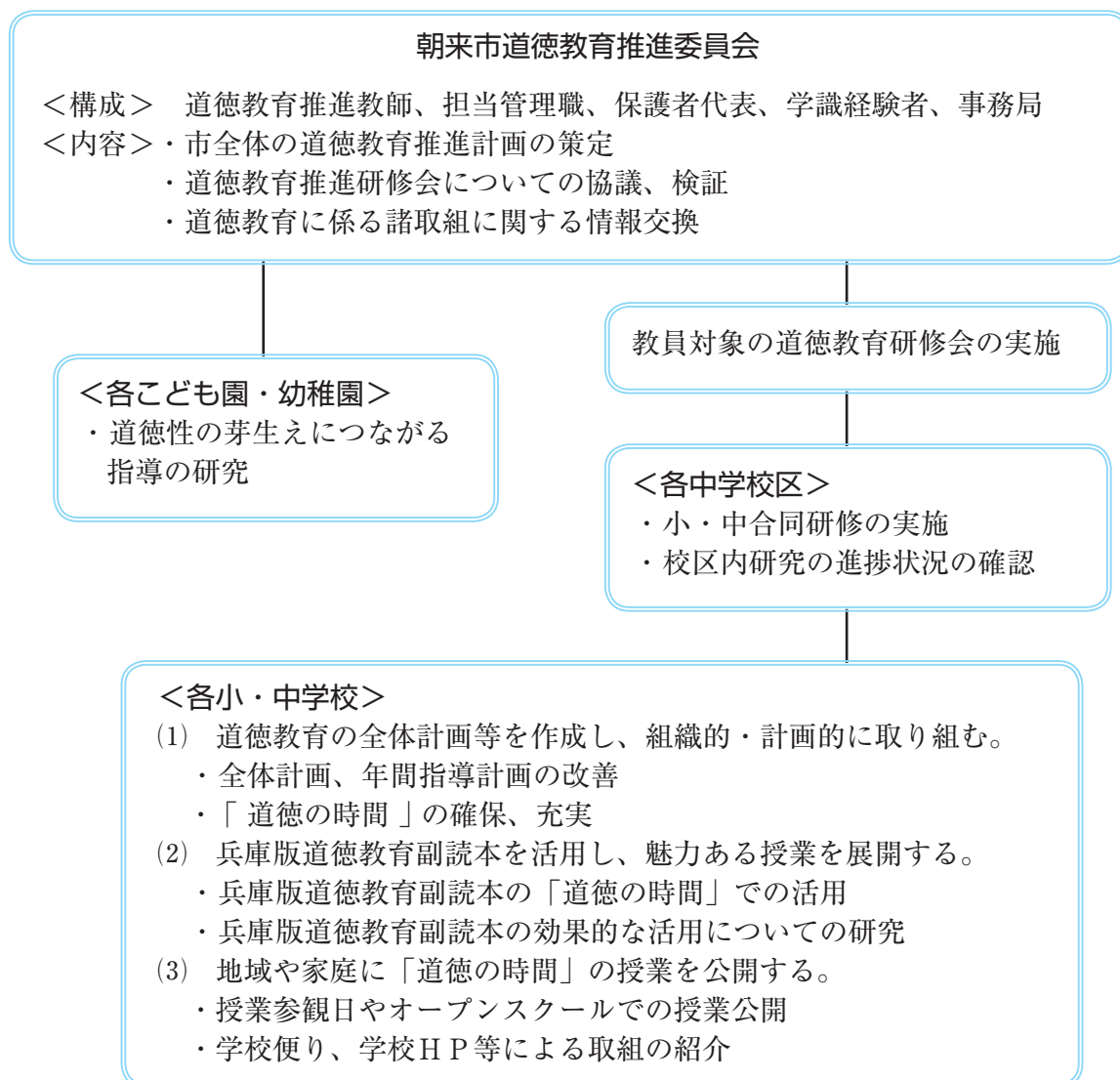
子どもたちの心に響く道德教育をめざして

はじめに

本市の児童生徒は、家庭や地域の教育的な風土や就学前教育を基盤として、学校における道德教育を中心とした「心の教育」をとおり、生命の尊重、善悪の判断、地域の伝統・文化の尊重などの道德性を養っている。しかし、価値観の多様化、高齢化・少子化・情報化など社会情勢の変化等によって、道德の時間に培った道德的実践力を発揮できず、友達や地域の方々に心配や迷惑を掛ける事例も見受けられることがある。

今年度は、学校における道德教育の中心的な役割を担う「道德の時間」を充実させることを本市の道德教育推進の中心課題として取り組んだ。

1 推進体制



2 「道徳の時間」の充実に向けて

(1) 道徳教育推進委員会の開催

市内の道徳教育推進教師と担当管理職、保護者代表等で道徳教育推進委員会を組織し、市内の道徳教育の充実に向けて、兵庫版道徳教育副読本の活用や道徳についての校内研修のより効果的な実施について情報交換等を行った。

また、兵庫版道徳教育副読本をより多くの方の目に触れるように、市内の図書館、公民館をはじめ、地域自治協議会や社会福祉協議会の施設や病院などに配布し、自由に閲覧ができるように依頼した。

(2) 道徳教育に係る全教員研修の実施

これまで各校では、道徳教育推進教師を中心として、道徳の時間の充実に向けた研修を行ってきた。併せて、道徳参観日や指定研究などをおとして、家庭や地域に向けて道徳教育の取組を発信してきた。

今年度は、市内の全教員を対象として、主人公の心の変化にふれながら、児童生徒が生き方について考えることのできる道徳の時間となるように、道徳の資料の読み方、発問の仕方など具体的な内容について研修会を行った。



<教育研修会>

- (1) 日 時 平成 24 年 8 月 17 日（金） 13：45～15：30
- (2) 内 容
 - ・講演「これからの 10 年を見据えた道徳教育の推進
－ 新学習指導要領の趣旨を生かした次の一步」
 - ・講師：兵庫教育大学大学院 教授 谷田増幸 氏

<第 1 回道徳教育推進研修会 ～子どもたちの心に響く授業づくり～>

- (1) 日 時 平成 24 年 8 月 31 日（金） 10：00～16：00
- (2) 内 容
 - ・講義及び演習「道徳の授業づくりについて」等
 - ・資料 「橋の上のおおかみ」「友のしょうぞう画」
「一冊のノート」「からすのえんどう」「つながるいのち」

<第 2 回道徳教育推進研修会 ～授業力向上に向けて～>

- (1) 日 時 平成 24 年 12 月 25 日（火） 13：30～16：30
- (2) 内 容
 - ・講義及び演習「道徳の授業づくりについて」
 - ・資料 「まどガラスとさかな」「なしの実」「わが道を歩む」
「ぼくの町のたからもの」「事典をつくった人」「運命の木」

道徳教育推進研修会は、どちらの回も講師に、横山利弘氏（日本道徳教育学会会長）と行本美千子氏（日本道徳教育学会近畿支部長）をお招きし実施することができた。

特に、この道徳教育推進研修会では、道徳教育の目的にはじまり、授業づくりについて資料の扱い方、読み方（分析）、発問等、授業への臨み方について研修を深めた。兵庫版道徳教育副読本の扱い方、活用の仕方等について、全教員が認識を深めるとともに、関心と意欲を高めることができた。

全市的な研修会の開催は、中学校区での授業研究等においても共通の認識を持って、授業参観や協議に臨むことができ、大きな成果が感じられた。

■小・中連携事業 道徳部会の取組（和田山中学校区）

本市では、平成 21 年度から中学校区の実情に合わせながら、小・中連携事業を行っており、学習、生活、特別支援教育、特別活動の 4 つの部会で計画的に取り組んでいる。当中学校区では、昨年度から中学校区独自の方向性として、特別活動部会を道徳部会と置き換えて活動をしている。

1 今年度の道徳教育部会の主な活動

- 第 1 回（8 月 17 日） 今年度の活動計画の確認
- 第 2 回（11 月 6 日） 和田山中学校での授業公開と事後研究会の実施
- 第 3 回（2 月 15 日） 実践交流と次年度に向けての協議



和田山中学校での授業公開

2 成果と課題

- ・ 各校とも、昨年度に増して兵庫版道徳教育副読本を活用することができた。地元を扱った資料を扱うことをはじめ、異校種の資料を扱った授業をしたり、家庭への持ち帰りを確実にしたり、副読本を用いた道徳参観日を実施することができた。
- ・ 市の道徳教育推進研修と相まって、道徳の授業への意識が高まった。
- ・ 小学校高学年から中学生にかけて授業中の発表が減る傾向にある。話がしやすい人間関係づくりと合わせて、発問や指導方法の工夫を重ねたい。

■市教育研修所指定研究を活用して（朝来中学校区）

本中学校では、昨年度まで取り組んだ特別支援教育の観点を取り入れた個に応じた研修の上に立ち、今年度は、「道徳の時間の授業力向上をめざして」をテーマに研修に取り組んだ。校内や授業参観での授業公開の他に、市の道徳研修への積極的な参加、その他の道徳に関する研修会に参加した教員からの伝達研修、先進的な道徳の時間の映像を活用した校内研修等を積み重ねた。

1 道徳資料の読み方についての研修（9 月 19 日）

行本先生をお招きし、資料の読み合わせをした。資料は、「銀色のシャープペンシル」「加山さんの願い」などの資料を扱い、小学校にも呼びかけをし共に研修をすることができた。

2 研究発表会（1 月 25 日）

本研究の成果発表として、市内全小・中学校に授業公開をした。横山利弘先生と行本先生にも全ての授業についてご指導をいただいた。授業公開の後には、横山先生から当日の授業公開の様子も交えながら、授業力向上に向けての今年度の取組を振り返りつつ、来年度以降の研修の方向性も段階的に話をいただくことができた。参加者は改めて今年度の研修内容を確認し、新たなステージに挑戦する意欲を一層高めることができた。

■ 道徳参観日の開催（朝来市立竹田小学校）

朝来市立竹田小学校では3年前から「道徳授業参観日（オープンスクール）」を実施している。実施4年目の今年は、兵庫版道徳教育副読本を全学年で取り扱うことにした。さらに、授業後には、『みんなでトーク』と題し、保護者と教師がグループ・トークをする場を初めて設け、参観した道徳の授業の感想を交えながら、現在、学校で取り組んでいる道徳教育についてのディスカッションが行われた。また、今後の取組に生かすため、保護者を対象に道徳教育に関するアンケート調査も実施された。



公開授業の様子



「みんなでトーク」の様子

<「みんなでトーク」の参加者の感想から>

- ・保護者の方々とお話の中で、「子どもたちにつけたい力」ということについて、「同じ思いなんだな。」とあらためて確認、共感でき、うれしかった。保護者と同じ思いを持ちながら取組を進めることで、日々の教育がより一層力強く、確かになると感じた。
- ・この会で気付かされたことがあった。まずは親の私から変わっていこうと思った。
- ・兵庫版道徳教育副読本を読んでもみると、親である私自身知らないことがいっぱいあった。また、内容も素晴らしいので、親こそがこの副読本を読み、内容について子どもと話をしたり、親として、一人の人間として、自分の生き方に取り入れたりしていきたいと思った。

<道徳参観日を終えて（アンケートから）>

- ・飼い犬や下級生など、小さい子、弱い者に対して優しく接するように常日頃から言っている。また、履物を揃え、食器の片づけ等、基本的な生活習慣が出来るように教えている。
- ・あいさつを大事にしようと思っている。家庭内でも外でも同じあいさつができ、心を通わすことができる子になって欲しいと思っている。

コミュニティースクール推進校でもある竹田小学校では、学校、学級通信に加えて、コミュニティースクールの広報誌「SCRUM（スクラム）」も活用し、学校が進める道徳教育や兵庫版道徳教育副読本の内容や取り扱いについて校区の住民にも情報を発信している。

市内の他の小・中学校でも道徳の授業参観日を設定し、保護者や地域住民に対し授業公開を実施した。各学校においては、公開した授業の様子や中学校区での取組について、学校通信や学級通信等を通じて家庭・地域に対して情報を発信することをおし、学校のみならず家庭でも子どもたちの道徳性を育むことへの一層の理解と協力を促す取組をすすめている。

Ⅳ章 資料

平成24年度 第1回道徳教育推進フォーラム パネルディスカッション

「兵庫の道徳教育のさらなる充実をめざして」

《コーディネーター》元関西学院大学大学院教授

横山 利弘

《パネリスト》文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

澤田 浩一

兵庫教育大学大学院教授

谷田 増幸

尼崎市立大庄小学校教諭

岡本 薫

洲本市立安乎中学校主幹教諭

浜田 宏

<横山先生>

昨年までは、資料の読み方とか、発問とか、演習的なことを行った。今年のフォーラムは道徳教育推進のためのフォーラムなので、ねらいとしては、「よし、私が中心となって進めてやろう。」という気持ちになって帰っていたことです。

兵庫県は、毎年ステップを踏んで道徳教育を推進してきた。兵庫県教委、神戸市教委の熱心な取組で、兵庫県全体に道徳教育に力が入っている。

20年たっても、道徳の時間は苦手である場合が多い。年間35回。10年でも350回。教科は1年に500回。そこにギャップがある。今日のフォーラムは、道徳の授業が、苦手であることを前提としていきます。要は、きちんとした道徳教育を子どもに行うことです。

本題に入ります。昨年の拠点校として、岡本さんと浜田さんが実践を発表された。皆さんも副読本を1年使われ、いろいろなことが出てきたと思う。フロアからも、悩みなどをフランクに出してもらえようような時間が取れればと思う。悩みは共有した方がいい。そしてさらなる兵庫の道徳教育の充実を目指しましょう。

今日は大きく2つのことを考えている。1つは、道徳教育の要とされる「道徳の時間」の特質、役割をどう生かすか。充実した授業をするには、どうすればいいか。もう1つは、学校だけでの取組には限界があることは皆さん感じておられると思う。特に家庭。家庭が

子どもの心を育てることに、もう少しシフトしてくれるとありがたい。家庭との連携をどうすればいいのか。また小学校、中学校の連携について考えていきたいと思います。できれば最後に、来年に向けて、どんなことを考えていけばいいのかを探りたい。

さっそくですが、今日の実践発表について、谷田先生コメントをお願いします。

<谷田教授>

こんにちは谷田です。横山先生がコーディネーターですが、先生方にどんどん意見をいただきたい。あえて先生方に投げかけたい。先生方は、先ほどの発表を聞いて、何を持ち帰りたいと思われましたか？どういう示唆を受けましたか？先生方の思考の中の何が触発されましたか？1つの問いかけとして、様々な学校がありますが、道徳の時間の授業作りで、最初はどこから手をつけたのか。誰が手を挙げたのか。もっとつっこんで聞いてみたいと思った。

<横山先生>

どんなきっかけで始めたのか。岡本先生いかがですか。

<岡本教諭>

大庄小学校には、平成7年から8年間お世話になった。30歳から8年、道徳主任だった。何をしていたかわからず、年間計画の「テ」のテレビを見ていた。正直に言うと、20年で

700回の授業はできていない。平成18・19年、大庄小が道徳の研究指定を受けた。他校にいたが、研究発表を見に行った。そこでは、読み物資料をしっかりとやっていた。研究指定が終わってから、研究主任として、同校に再び赴任した。校長のリーダーシップの元、大庄小に必要なものは、心の教育となった。心が育たないと、学力も育たない。そうして研究が始まった。最初はとまどいもあったが、横山先生の示唆を受け、読み物資料一本で行うこととした。そして学校教育全体で取り組むのが道徳教育だということで、プロジェクトチームを立ち上げた。国語、道徳、生徒指導、特別活動、地域の5つのプロジェクトが総がかりで道徳教育を行い、そして要として「道徳の時間」を位置づけて、研究を進めた。

<横山先生>

大庄小は、前の前の校長先生の時、文科省の指定を受けた。6年続いた。教員の異動があっても続いた。長くやると学校の風土になる。2年目の先生、谷田先生のお話を聞いてどう思ったか、お願いします。

<フロア>

中学校の発表で、家庭にアンケートをとられていた。そういう方法もあるのかと思った。その結果を通信で知らせたり、授業の計画に生かされたりしているのかと思うと、必要性を感じた。姫路市の安室中学校です。

<谷田教授>

浜田先生にお聞きしたかったのは、研究授業をやる時、誰がやるのか、資料はどうするのか、最初のきっかけをお聞きしたい。

<浜田主幹教諭>

最初に手を挙げたのは私。詳しい説明を受けたのが5月の半ば。3月に研究指定になったと聞いた。とりあえず、授業については、試行錯誤の中で姫路のお城をテーマにした読み物資料を使って、6月の16日に授業をやった。みなさんに「見に来てください。」と声をかけた。組織的な動きではなく、小さな部分からのスタートで広げていった。自分がやることで、発展したらと思った。

<谷田教授>

先生がやったことが、学校にどんな影響を及ぼしましたか。

<浜田主幹教諭>

授業研究をやっていこうという雰囲気ができた。先生方の意識を高めることができた。7月には同じ学年の先生が、授業をされた。

<谷田教授>

先生が授業を行うことで、次の方がずっと手をあげるリズムができた、ということですね。

<浜田主幹教諭>

リズムまでは行かなくても、そういう雰囲気ができた。

<横山先生>

非常に大事なポイントですね。先生方、どこから手をつけるか、着手の点。

次に澤田先生お願いします。

<澤田調査官>

先生方にお伺いしたいのは、兵庫県には素晴らしい冊子がありますが、何が一番好きですか？兵庫県に何度かおじゃまして、浄土寺の資料を読み、行ってみました。国の資料と兵庫県の資料は、同じ時期に作っていた。兵庫県の資料は、行ってみたくなる資料が多くあり、津名の方にも行ったことがある。イメージが立ち上がってくる資料がたくさんある。全国の先生にも使ってほしい。兵庫県の資料は、「先人に学ぶ」「自然と生きる」「伝統と文化を受け継ぐ」。国の方は、「スポーツ」もあるが、兵庫県の資料には、それも含まれている。そして「震災からの教訓」が入っていて、是非全国の方に読んでもらいたい。

昨日福島県で話をしていて、これから教材を作ろうとしている。私がいつもお話するのは、震災を心にとめて、忘れない、ということ。そういう意味でもこういう素晴らしい資料を道徳の授業に使ってほしい。その良さを全国にお伝えしたい。

<横山先生>

兵庫県の副読本を作りながら、文科省資料作りの主査をしていて、兵庫県の資料を優先

したから、国の方が1年遅れたが、国もいい資料ができた。Webでも見られるが、市販される。「いい資料がない。」という、声もよく聞かすが、国の資料も県の資料もいい資料なので、使ってほしい。どの資料がお勧めか、皆さんに聞いてみたい。

<フロア>

「ウラー！タイショウ！」

「留さんのボギー」

「はばたけひょうごっ子」

「語りかける目」

「闇の中の炎」

<横山先生>それは文科省の資料ですね。

<フロア>

「オオムラサキのたん生」

「運命の木 - 姫路城の大柱 -」

「人としての修行 - 鶴澤友路 -」

「ひとすじの道 - 城ノブ -」

全部いいと思います。

実はあんまり使えてません。

<横山先生>

これからもうちょっと使ってみてください。澤田さんの説明では、「イメージが立ち上がってくる資料」とおっしゃった。道徳の授業をやって、子どもが育つのは、文字情報から、映像を立ち上げていく力をつけていくこと。それがないと、行動の変化まで行かない。

次に、小中との連携、家庭との連携について、全国でご覧になって、調査官からお願いしたい。

<澤田調査官>

やはり、家庭、地域との連携については、道徳の授業をどういうふうに公開していくか、とうことが1つあると思う。小学校では8割ぐらい。全クラスで公開しているのは、その半分で4割ぐらい。中学校の方は、3分の2ぐらいが授業公開を行っていて、その半分ぐらいが全クラス公開している。

やはり授業公開は、家庭、地域との連携に大きな意味があると思う。子どもたちと先生の人間関係がすごく見える授業は、道徳だと思う。保護者がそれを見た時、それがダイレクトに伝わる。道徳の授業を大切に、授業

を公開することは、保護者との信頼関係を高めることにつながると思う。

地域教材を自ら手作りしようとする、地域の中に入って行って、ゲストティーチャーを沢山使わないといけない。使い方が難しいが、うまく人間関係を築いて、学校を開放していくことが、道徳教育にとっては大切だと思う。先生方の発表は大変参考になった。ご苦労話も伺いたい。

<横山先生>

お聞きしましょう。自分の学校で道徳の公開をやっているところは？多いですね。

計画中のところは？全クラス公開のところは？いいですね。素晴らしいですね。その中で上手にできているところは？これは次の課題ですね。谷田先生、連携に関してどうですか。

<谷田教授>

連携には、公開というお話でしたが、公開から先生方は何を学ばれるのでしょうか。

小・中との連携で、よく授業を見せていただくが、小学校の授業は、非常にきめ細やかな授業で、中学校は、生徒の気持ちをしっかり把握されて授業をされる。お互いに学ぶべき部分がある。異校種間の連携は、様々な取組がなされているが、自分たちとは違った学校を見ることで、新しいものが生まれる。もちろん、地域の方がそこに参加されれば、また新しいものが生まれると思う。私はそこに期待している。

<横山先生>

岡本先生のところは、小中間の授業を見るという経験は？

<岡本教諭>

2年ほど前にお話があったが、実現できなかった。今年中学校の先生に見てもらおうと言うことになった。小学校の教師は、中学生に成長した子どもをある程度想像できるが、中学校の先生は、遡ることはないと思う。小学校でどんな授業を受けてあがってきたのか、また中学校ではどんな授業を行っているのか、お互い見合うことを今年考えている。

<横山先生>

浜田先生のところは？

<浜田主幹教諭>

今の学校では、オープンスクールで公開することがあり、前の学校では、小中連絡会の中で、お互い授業を見合うことが続けられている。その後出前授業に発展したが、負担もあり、まず気運を高めることから始め、4、5年かかった。

<谷田教授>

会場の先生方にお聞きしたいのは、何を見るのか。道徳の時間は、生活経験の違いから、授業研究をしても、思ったようにいかないことがある。中心発問を考えても、思ったように答えないことがある。その時に先生は何を聞くのか、どんなことを学ぶのか。そこに道徳の研究の面白さがあり、そのベースが各教科の指導にも大きく生きてくるし、小学校、中学校では、校内研究の共通の柱になると常々感じている。

<横山先生>

小学校は週1回の授業が道徳以外にもある。その分、国語科に近くなっている傾向がある。中学校は、教科担任制だから、経験を積める時間がある。教科の時間の多さに比べると道徳は経験を積みにくい。だから苦手意識も中学校の先生の方が多いのではないか。授業が生徒指導的になりやすい。先生自身の経験年数の違いもある。そこで学び合えるとは？そのへんを詳しく。

<谷田教授>

最近は校内研修によく行かせてもらう。公開があり、記録し、授業者の感想、順番に意見、最後に指導助言の先生から。という終わり方をすることが多い。私が行くところでは、いきなり介入させてもらう。ねらいは何か、子どもからどういう発言があれば、うまくいったと思うかを聞かせてもらう。資料を使った授業では、最初に教師がどう発言するか非常に興味がある。サッカーに例えると、ボールを受け取った瞬間である。さて、ゴールに向かうのに、どうやっていくか、いきなりけり込む方法もあれば、パスをつなぐ方法もある。中心発問に対して、本日のねらいに対して、どう考えていたか、ほかの先生はどうか、を考えていく校内研究は非常に楽しい。外部か

ら入って、何か新しいことを考えたり、深め合えたりするということは、小学校でも中学校でも存分にあり得ることだと思う。最近は、校内研究の中で、道徳の時間を活かして、副読本を活かして、どういうふうにならに迫っていくかに興味がある。

<横山先生>

校内研究のあり方で、講師に行くと、授業見てください。コメントしてください。と言われると、「道徳の授業できるの？」という思いがある。ねらいと関係しているが、道徳の授業ではない授業を道徳の時間として、やっている授業にコメントしにくい。授業に入る前の研修、つまり資料の読みとか、発問の考え方とか、そういう研修をきちんとやり、それから授業をやって研修をやるのがいい。全国に比べて、兵庫県は、そういう研修のやり方が多くなってきている。研修の持ち方として、授業の前に教材の読み方とか、発問について、研修してから、授業に入っている学校は？

このパーセンテージどう解釈されますか。

<谷田教授>

もう少し増やした方がいいという感じです。道徳の時間として押さえなくてはいけない部分、つまり資料、ねらい、中心発問に関わって、どういう対話を作っていくか。ということです。横山先生が今おっしゃっているのは、授業の前段階がきちんとできていますか、ということだと思いますが、何もない中で、授業研究をしても実りが少ない。ねらいについて、資料について、ベースになる部分を捕らえておかないと、議論の共通の部分が出てこないと思う。

<横山先生>

澤田先生、事前の研修について、先ほど手を挙げていただきましたが、何か思われたことは？

<澤田調査官>

私は茨城県の高등학교から調査官になりました。道徳のことは、よくわかっていない部分が多く、横山先生に教えていただき、目から鱗というのは、こういうことだと思いながら生活をしている。道徳と同じくらいの年数

を重ねていて、道徳ができて、2ヶ月後に生まれました。昭和33年11月1日生まれ。誕生日がいっしょなので、かわいい猫のキャラクターに興味がある。キティという猫なんです。お母さんの手作りのアップルパイが大好き。そのキティが、全世界を席卷しているというテレビ番組をやっていた。かつてキティはキャラクターとして消えてなくなりそうになった。しばらくぱっとしなかった。3代目のデザイナーが顔の輪郭の黒い枠を取り、服をピンクにした。顔のデザインの基本は変わらないのに、外側を変えるだけで、全世界の心をつかんだ。何が大事かという、良いものは良いという信念と柔軟性。

私は道徳の時間というのは、すごい可能性を秘めていると思っている。その良さが本当に理解されていないんじゃないか。そのことが残念だと思っている。昭和33年に、道徳を作った先生が、道徳の信念は変わっていないとお話をされた。それは内容の説明のところで、「道徳教育の内容は、教師も生徒も一緒になって、理想的な人間のあり方を追求しながら、我々はいかに生きるべきかをともに考え、ともに語り合い、その実行に努めるための共通の課題である。」と33年に書かれていた。そこに、ともに考え、ともに語り合いと書かれていて、これは50数年変わってないんだと。

横山先生がお考えになっている道徳の時間は、まさにともに考え、ともに語り合い生徒たちが「今日の道徳、楽しかった。いろんなことを考えることができた。いろんなことが話せた。」と思える道徳。ところが、中学生は左脳が発達しているので、思ったことがぱっと言えなくなっている。それが言えるかどうかは、先生方や友達との信頼関係。それができている学校の授業を見ると、鳥肌が立つ。柔軟性が大事。そういう授業が広がって行くことをお願いしたい。

<横山先生>

先ほどの研修の話ですが、授業の前に、授業のための資料の読み方から、その部分の研修をしてから、授業をやってみて、検証するという手続きになっている学校が増えている。準備をしないまま授業すると、研修会の焦点が合わない。是非、先生方、授業の前に研修をして、教材の共通理解をしてから、授業を見ましょう。事前の分析はそれでよかつ

たのかも含めて研修をすると、みるみる間に力がつくので、是非やってみてください。そうすると、キティちゃんの枠が取れる。道徳の時間は、ともに考え、ともに語り合う時間で、先生が教えるのではない。先日中学校でやってみた。文科省資料「おてんと様が見てござる」で「おてんと様って何か？」という中心発問で15分考えた。最初「神様」とか「神様みたいなもの」と言っていたが、ある子が「自分の中にある良心」と言った。それから授業の流れが変わった。

後で「おてんと様という言葉で、15分も考えた。」「考えるって面白い。」「いつもは考えないから眠たいんだ。」という感想があった。子どもたちは考えたがっている。考えるというプロセスが大事。純粋に語り合うことが大事。

学校と家庭との連携、道徳教育の連携という時に、これを外したらいけないというポイントがあると思う。谷田先生に簡潔に説明してほしい。

<谷田先生>

何に立ち返って考えたらいいか、それは道徳の内容。小学校では、16、18、22。中学校では24の内容項目に立ち返って考えてみる。その中で、我が校は、どういう点を重点項目にしているのか、例えば、生命尊重なのか、規範意識なのか、あるいは人間関係なのか、信頼、友情なのか、あるいは郷土に対する思いなのか、そういった点にかかわって、どうやって地域社会と連携していくのか、その連携の中で、どういった道徳性を育みたいのかをはっきりさせていただきたい。これが、道徳における連携のスタンスである。

<横山先生>

学校と家庭との連携を言う時、学校はどういう道徳的価値を重視しているか、内容項目を家庭に伝え、それとの関連で、家庭と協力し合えることを明確にしていけないと、道徳の連携にならない。みなさん、質問がございましたら、あるいは悩みがあったら、手を挙げてください。

<フロア>

小学校の先生のご発表の中に、「自分の考えやものの見方などを自由に発表できる雰囲気

作り」がありましたが、具体的にどうされているのか。

<岡本教諭>

道徳の時間に、人間関係をよくするためのエンカウンターなどはしていない。学級活動や総合的な学習の時間、いろいろな教科を通して、いろいろな発言があった時、みんなが受け入れてくれるような学級の雰囲気作りを4月、5月に入れている。また、参加体験型の授業を計画的に学活等で取り入れるようにしている。

<フロア>

年間指導計画を作成し、指導することはわかっているが、実際4月に担任が決まり、すぐ提出で、なかなか時間が取れない。どの時期にどのような形で作っていけばいいかをアドバイスをいただきたい。

<横山先生>

年間指導計画というのは、計画だから途中で見直せばいい。4月にとりあえず作る。去年の指導計画を見て、やっていきながら、資料を差し替えたり、今年のものに書き込んで、学期に1回年間計画を見直し、差し替えるといい。あまり縛られないこと、あくまで計画である。

最後に澤田調査官から、兵庫の道徳教育について、期待することをまとめていただきたい。

<澤田調査官>

貴重なお時間をいただいたことに感謝する。お願いしたいことは、生徒たちが、先生方と一緒に楽しい道徳の時間を過ごすこと、教育活動はバランス。教育活動全体を通じて、道徳教育を行うわけですから、生活指導や生徒指導と道徳の時間の指導は両輪である。どちらもバランスよく、道徳の時間においては、子どもたちが「先生と今日、気持ちが通じ合った。」という道徳の時間を積み上げていただきたい。

震災後恩師を2人亡くしたが、先生のことはいつまでも覚えている。先生たちの言葉が後で思い出されるような時間を作っていただきたい。そのために素晴らしい資料も用意されているし、日本全体の中で、一番勢いのあ

る地域ですので、みなさんの力を全国の力にしたい。是非よろしくをお願いしたい。

<横山先生>

エールを送られました。全国で一番力がみなぎっているのは、兵庫県の道徳、ただ積み上げていただく必要がある。そしてその中身は、形式に流れるのではなく、先生の一言一言が、いつか子どもが時間がたっても、思い出することができるような、あるいは思い出さずにはいられないような、そんな授業をしてほしいということでした。

今日の話は、最初に谷田教授の方から、着手の点の大事さ、実際にやっていくために、どこからやっていくか、から始まりました。そして最後は、求められるのは継続の力ということだと思います。澤田調査官は、これを継続して行ってください、と言われました。継続は力なりということがあるが、継続は努力なりだと思う。我々が具体的に努力しないかぎり、継続はできない。お互い努力することを誓いあってこのフォーラムを閉じたいと思います。どうもありがとうございました。



「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年
1 主として自分自身に関すること	
(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。	(1) 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。
(2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。	(2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。
(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。	(3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。
(4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。	(4) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。
	(5) 自分の特徴に気づき、よい所を伸ばす。
2 主として他の人とのかかわりに関すること	
(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。	(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。
(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。
(3) 友達と仲よくし、助け合う。	(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。
(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	(4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。
3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること	
(1) 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。	(1) 生命の尊さを感じ取り、生命のあるものを大切にする。
(2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。	(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。
(3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。	(3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。
4 主として集団や社会のかかわりに関すること	
(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。	(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。
(2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。	(2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。
(3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをし、家族の役に立つ喜びを知る。	(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。
(4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。	(4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。
(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。	(5) 郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。
	(6) 我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。

「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

小学校第5学年及び第6学年	中学校
1 主として自分自身に関すること	
(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。	(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。	(2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
(3) 自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。	(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。
(4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。	
(5) 真理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。	(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
(6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。	(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。
2 主として他の人とのかわりに関すること	
(1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。	(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。
(2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。
(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。	(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。
(4) 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。	(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。
(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。	(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ。
	(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。
3 主として自然や崇高なものとのかわりに関すること	
(1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。	(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。
(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。	(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。
(3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。	
	(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見いだすように努める。
4 主として集団や社会とのかわりに関すること	
(1) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし進んで義務を果たす。	(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。
(2) だれに対しても差別することや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。	(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。	(3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。
(4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。	(4) 自分が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。	(5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。
(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。	(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。	(7) 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。
	(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。
	(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
(8) 外国の人々や文化を大切にする心を持ち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。	(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。

道徳教育推進事業について

【事業趣旨】平成23年3月に配布した兵庫版道徳教育副読本（以下、副読本）を有効に活用し、学校・家庭・地域と連携した兵庫県の道徳教育の充実に向けた取組を推進する。



道徳教育推進協議会

○兵庫県道徳教育推進協議会 [年2回実施]

- ・全県の道徳教育の推進状況の評価・検証、推進方策等の検討、提言
- ・構成委員：有識者、県校長会関係者、県PTA関係者等

○地域道徳教育推進協議会（神戸市、各教育事務所・教育振興室）[年2回実施]

- ・副読本の活用による「道徳の時間」を要とした道徳教育の推進状況の評価・検証
- ・構成委員：有識者、市町教委関係者、市町校長会関係者、市町PTA関係者等

道徳教育実践研修

- 参加者
 - ・県下小・中学校の道徳教育推進教師等

- 実施
 - ・年間2回（全県研修、地区別研修）

- 内容
 - ・副読本の普及啓発
 - ・副読本を活用した授業研究
 - ・副読本を活用した授業実践の深化



道徳教育推進拠点校事

- 指定地域
 - ・県下10地域（小・中学校）、全20校

- 内容
 - 副読本の活用による道徳教育の充実

- ・副読本を活かした道徳の授業の推進
 - ・副読本の年間指導計画への位置づけ
- 「道徳の時間」の実践研究の推進
 - ・道徳の授業研究会（公開授業、実践発表）
 - ・先行実践から得た成果、課題の情報発信

拠点校



家庭・地域



○家庭・地域と連携した道徳教育の推進

- ・家庭での副読本活用促進



- ・道徳教育地域フォーラム



「道徳の時間」の授業公開

- ・オープンスクール等の機会に副読本を活用した道徳の授業を公開し、地域や保護者と連携した道徳教育を推進

道徳教育推進拠点校一覧

	小 学 校	中 学 校
神 戸 市	神戸市立本庄小学校	神戸市立葺合中学校
阪 神	尼崎市立大庄小学校	西宮市立浜甲子園中学校
宝 塚	三田市立武庫小学校	伊丹市立東中学校
播 磨 東	播磨町立播磨西小学校	明石市立江井島中学校
加 東	加西市立下里小学校	西脇市立西脇南中学校
播 磨 西	市川町立川辺小学校	姫路市立花田中学校
光 都	佐用町立德久小学校	たつの市立御津中学校
但 馬	香美町立余部小学校	新温泉町立夢が丘中学校
丹 波	篠山市立八上小学校	丹波市立柏原中学校
淡 路	南あわじ市立福良小学校	洲本市立安乎中学校

平成24年度 道徳教育推進事業について

【事業趣旨】 兵庫版道徳教育副読本（以下、副読本）の効果的な活用の定着を図り、学校・家庭・地域と連携した兵庫県の道徳教育の充実に向けた取組をさらに推進する。

学習指導要領（H20.3月告示）

- ・発達段階に応じた指導内容の重点化
- ・児童生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用
- ・道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実
- ・道徳の時間の授業公開、家庭や地域社会との共通理解・相互連携

道徳教育推進連絡協議会

- 内 容 ・道徳教育推進地域、推進校における実践研究の推進
・道徳教育実践事例集の検討
- 構成委員 ・有識者、推進校担当者等



兵庫における道徳教育

- ・指導の手引き、副読本を活用した発達段階に応じた体系的な指導
- ・体験活動と道徳の時間とを関連づけた指導

副読本作成方針

- ①兵庫ゆかりの人物を取り上げるなど地域の特性を生かす
- ②子どもたちに自己の生き方を考えさせる
- ③家に持ち帰り家族と一緒に読む

道徳教育推進フォーラム

- 参加者 ・県下小・中学校の道徳教育推進教師等
- 実 施 ・年間2回（全県、地区別）



全 県

- ・副読本を活用した実践発表
- ・パネルディスカッション
- ～兵庫がめざす道徳の授業～

地区別

- ・推進地域及び推進校における授業公開
- ・研究協議
- ～道徳教育の課題整理と実践～

道徳教育推進地域・推進校事業

- 指定 ・推進地域・・・県下2地域
・推進校・・・20校（県下10地域、小・中各1校）



推進地域

○「連携」を核とした全市的な道徳教育の推進

- ・校種間が連携し、発達段階に応じた道徳教育の推進
- ・家庭・地域が連携した取組



推進校

○副読本の活用による道徳教育の充実

- ・副読本を活用した道徳の授業の推進
- ・道徳の授業分析による副読本の活用効果の検証及び授業改善

○「道徳の時間」の実践研究の推進

- ・道徳の授業研究（公開授業、実践発表等）
- ・成果、課題の情報発信（フォーラム、HP等）

「副読本の効果的な実践のために」の作成

- ・道徳教育推進地域、推進校の取組を事例集にまとめ、県下の各学校へ配付・活用することによって、副読本を活用した道徳教育の普及・啓発を図るとともに、各校における道徳教育の充実に資する



道徳教育推進地域・推進校一覧

【推進地域】

播 磨 東	高砂市	
但 馬	朝来市	

【推進校】

	小 学 校	中 学 校
神 戸 市	神戸市立本庄小学校	神戸市立布引中学校
阪 神	芦屋市立浜風小学校	尼崎市立園田東中学校
宝 塚	川西市立桜が丘小学校	宝塚市立西谷中学校
播 磨 東	加古川市立神野小学校	稲美町立稲美中学校
加 東	加東市立三草小学校	多可町立加美中学校
播 磨 西	神河町立越知谷小学校	姫路市立飾磨中部中学校
光 都	宍粟市立波賀小学校	上郡町立上郡中学校
但 馬	新温泉町立浜坂西小学校	豊岡市立森本中学校
丹 波	篠山市立八上小学校	丹波市立柏原中学校
淡 路	洲本市立大野小学校	南あわじ市立南淡中学校

平成 24 年度「道德教育推進連絡協議会」委員

区 分	氏 名	職 名
学識経験者	横 山 利 弘	元関西学院大学大学院教授
	谷 田 増 幸	兵庫教育大学教授
	長 本 浩 嗣	兵庫教育文化研究所事務局長
学校関係者	平 山 直 樹	神戸市立本庄小学校長
	吉 田 裕 史	姫路市立高丘中学校長
	高 橋 久 美 子	芦屋市立浜風小学校教諭
	小 林 ま り 子	篠山市立八上小学校教諭
	井 上 真 一	稲美町立稲美中学校教諭
	森 中 誠	上郡町立上郡中学校教諭
教育行政関係者	草 名 木 聰	神戸市教育委員会指導部指導課指導主事
	瀧 野 祐 一	高砂市教育委員会学校教育課主任指導主事
	小 倉 畑 祐 貴	朝来市教育委員会学校教育課主幹
	楠 田 千 晴	但馬教育事務所主任指導主事
	仲 野 幹	淡路教育事務所指導主事

「副読本の効果的な実践のために」

平成25(2013)年3月

発 行 兵庫県教育委員会

連絡先 〒650-8567

神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL(078)341-7711(代表)